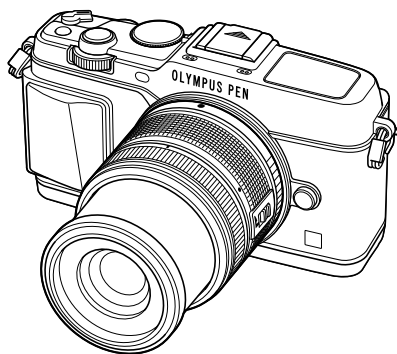
OLYMPUS®

デジタルカメラ

E-P5

取扱説明書

もくじ

- オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。特に「安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前に良くお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- この取扱説明書は、カメラのファームウェア Ver1.0 にもとづいて記載されています。カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

もくじ

ライブコントロール 52

メニューの機能 61

もくじ

作例写真を使った撮影テクニック
ハウツー グッド ピクチャー
http://www.olympus.co.jp/jp/imsg/webmanual/

やりたいこと別かんたん検索

撮影について

再生／編集について ☞

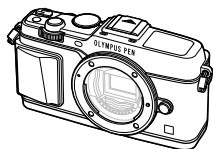
設定について ☞

本書の表記について

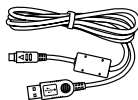
本文中、以下の表記を使用しています。

① **注意**	故障やトラブルになるような重要な注意事項や絶対に避けていただきたい操作について記載しています。
メモ	実際に操作するときに確認していただきたいことを記載しています。
こんなときは	知っておくと便利なことや役に立つ情報を記載しています。
☞	関連する情報の参照ページを記載しています。

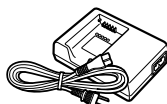
同梱品を確認する

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。
万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

カメラ

ボディキャップ

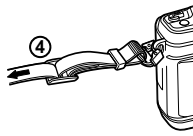
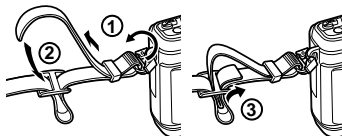
ストラップ

USBケーブル
CB-USB6

- PCソフトウェアCD-ROM
- 取扱説明書
- 保証書

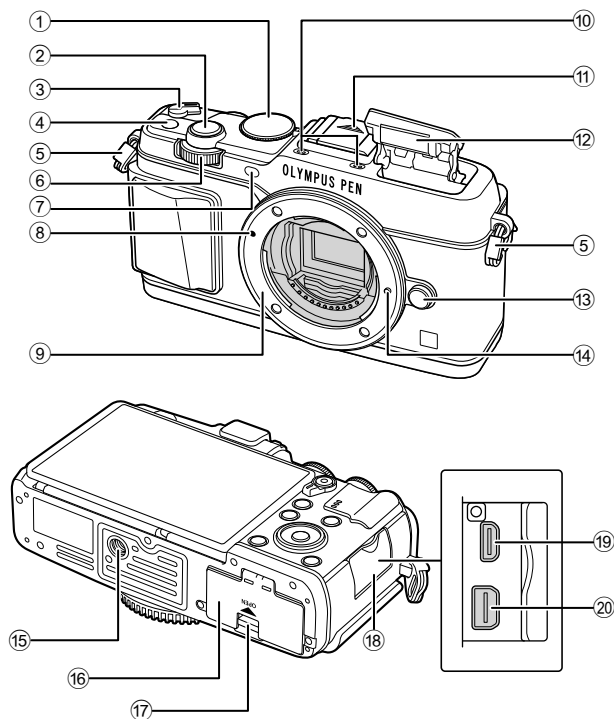
リチウムイオン電池
BLN-1

リチウムイオン充電器
BCN-1

ストラップを取り付ける

1 矢印にしたがってストラップを通します。

2 最後に強く引っ張り、抜けないことを確認します。

- もう一方のストラップ取り付け部にも、同様にストラップを取り付けます。

1 カメラの準備と操作の流れ

各部の名称

① モードダイヤル..............................P.15
② シャッターボタン............................P.16
③ ON/OFFレバー..............................P.13
④ **Fn**ボタン P.19
⑤ ストラップ取り付け部 P.7
⑥ サブダイヤル*（ ）..........P.18, 25–28
⑦ セルフタイマーランプ／
AFイルミネータ P.43/P.77
⑧ レンズ合わせマーク........................P.12
⑨ マウント（ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。）
⑩ ステレオマイク..................P.50, 60, 73
⑪ ホットシューカバー
⑫ 内蔵フラッシュ...............................P.38
⑬ レンズ取り外しボタン P.12
⑭ レンズロックピン
⑮ 三脚穴
⑯ 電池／カードカバー.........................P.10
⑰ 電池／カードカバーロック P.10
⑱ コネクタカバー
⑲ HDMIマイクロコネクタ（タイプD）
....P.87
⑳ マルチコネクタ.................P.87, 97, 100

* 本書では、メインダイヤル（P.9）やサブダイヤルの操作を（ ）や（ ）のアイコンで示しています。

① フラッシュスイッチ..........................P.38
② アクセサリーポート..........................P.92
③ モニター P.13, 23, 46
④ ☑ ／ ◉（ムービー）ボタン
....P.19/P.17, 85
⑤ レバー...............................P.25–28, 86
⑥ Q ボタン P.18, 42, 47, 90
⑦ MENUボタン................................P.61
⑧ 🗑（消去）ボタン P.19
⑨ ▶（再生）ボタン P.18, 47
⑩ 十字ボタン*.....................................P.18
⑪ ホットシュー P.121
⑫ メインダイヤル*（⌓）.............P.25–28
⑬ スピーカー
⑭ INFO（情報表示）ボタン P.24, 37, 46

* 本書では十字ボタンの操作を△▽◁▷のアイコンで示しています。

電池を充電する／入れる

1 電池を充電します。

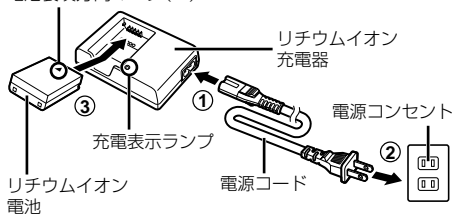
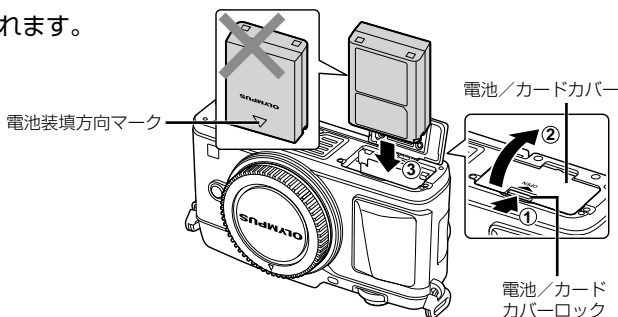
充電表示ランプ

	BCN-1
充電中	橙点灯
充電完了	消灯
充電エラー	橙点滅

（充電時間：最長約4時間）

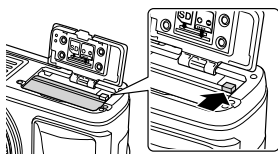
電池装填方向マーク（▲）
リチウムイオン充電器
電源コンセント
充電表示ランプ
電源コード
リチウムイオン電池
①②③

注意

- 充電が完了したら必ず充電器の電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 電池を入れます。

電池を取り出す

電池／カードカバーを開け閉めする際は、カメラの電源を切ってください。電池を取り出すには、電池ロックノブを矢印の向きに押してロックを外してから取り出します。

注意

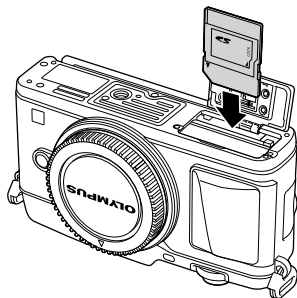
- カメラから電池を取り出せなくなった場合は無理に取り出さず、当社修理センターまたはサービスステーションまでご相談ください。

メモ

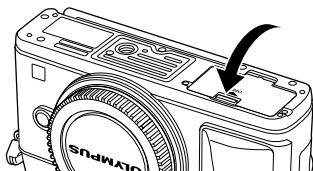
- 長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。
- 「電池と充電器について」も併せてお読みください（P.112）。

カードを入れる／取り出す

1 カードを入れます。

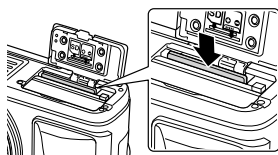
- カードがロックされるまで差し込みます。
☞「カードについて」（P.113）

注意
- 電池やカードの出し入れは電源を切ってから行ってください。

2 電池／カードカバーを閉めます。

- カチッと音がするまでしっかりと閉めます。

注意
- カメラをご使用の際は、必ず電池／カードカバーを閉じてください。

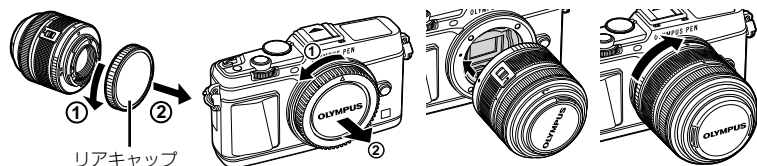
カードを取り出す

差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。カードをつまんで取り出します。

注意
- カード書き込み中のマーク（P.23）が表示されている間は、絶対に電池やカードを抜かないでください。

Eye-Fiカードをお使いのお客様へ

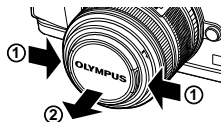
「カードについて」（P.113）をよく読んでからお使いください。

レンズを取り付ける

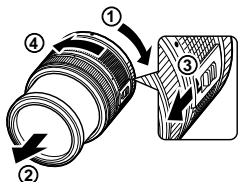
1 レンズを取り付けます。

- カメラのレンズ合わせマーク(赤印)にレンズの取り付け指標(赤印)を合わせ、レンズをボディに差し込みます。
- レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します。

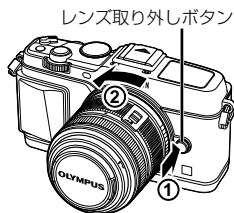
注意

- 電源が切れていることを確認してください。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- カメラ内部には触らないでください。

2 レンズキャップを外します。

UNLOCKスイッチのついているレンズをお使いの場合

UNLOCKスイッチ付きの沈胴式レンズは、沈胴状態では撮影できません。ズームリングを矢印の方向(①)に回してレンズを繰り出してください(②)。

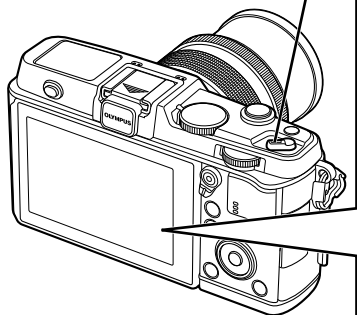
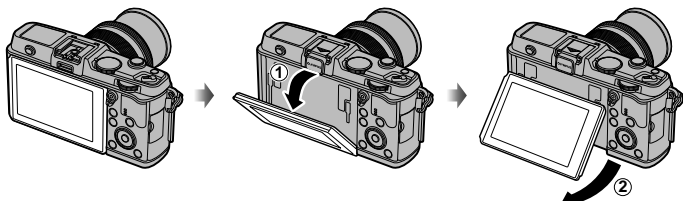
収納するときは、UNLOCKスイッチ(③)をスライドさせながら、ズームリングを矢印の方向(④)に回します。

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら、矢印の方向に回します。

交換レンズについて

「交換レンズについて」(P.115)をお読みください。

電源を入れる

1 ON/OFFレバーをONの位置に合わせて電源を入れます。

- 電源が入るとモニターが点灯します。
- 電源を切るには、レバーをOFFの位置に戻します。

モニターの操作

モニターの角度を変えることができます。

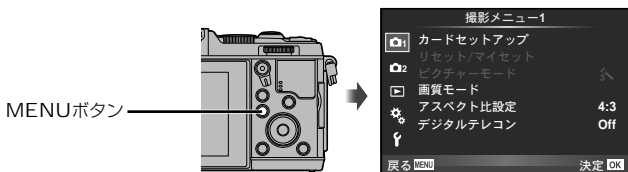
カメラのスリープ動作について

1分間何も操作しないとスリープモード（待機状態）になってモニターが消灯し、カメラは動作を停止します。シャッターボタンや▶ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。スリープモードで4時間放置すると電源が切れます。お使いになるときは、電源を入れなおしてください。

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

1 メニューを表示します。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。

2 [Y]タブの[日時設定]を選びます。

- 十字ボタンの△▽で[Y]を選択し、▷を押します。
- **[日時設定]**を選んで▷を押します。

3 日付／時刻／日付表示順序を設定します。

- ◁▷で項目を選びます。
- △▽で内容を選びます。

時刻は24時間表示です。

4 設定を終了します。

- ⓚボタンを押して日付／時刻を確定しメニューに戻ります。
- MENUボタンを押してメニューを終了します。

撮影する

撮影モードを選ぶ

モードダイヤルを使って、撮影モードを選びます。

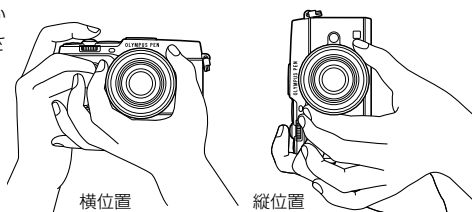
iAUTO	カメラが撮影シーンに最適な撮影モードを自動的に設定するフルオートモードです。カメラまかせで撮影するので、はじめての方には便利です。
P	絞り値とシャッター速度を自動で最適値に設定します。
A	絞り値を選択して撮影します。背景のボケ具合を操作した撮影をします。
S	シャッター速度を選択して撮影します。動く被写体の動きを表現したり、動きを止めた撮影をします。
M	絞り値とシャッター速度を設定して撮影します。花火などの長時間露光による撮影などをします。
ART	アートフィルターを選択して撮影します。
SCN	被写体に合わせてシーンを選択して撮影します。
▮▮	組み写真の撮影ができます。組み写真のタイプを選択して撮影します。
🎥	絞りやシャッター速度の効果、ムービー用の特殊効果を使った撮影ができます。

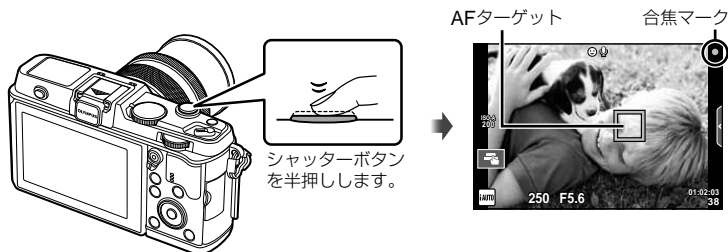
静止画を撮る

はじめはカメラにおまかせで撮ってみましょう。

1 モードダイヤルをiAUTOに設定します。

2 カメラを構えて構図を決めます。

- レンズに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

3 ピントを合わせます。

- 被写体がモニター中央にくるようにして、シャッターボタンを1段目まで浅く押し込みます。(半押し)
  合焦マーク(●または◎)が表示され、ピントの合ったところに緑の枠(AFターゲット)が表示されます。

- カメラが自動的に決定したISO感度、シャッター速度、絞り値が表示されます。
- 合焦マークが点滅しているときは、被写体にピントが合っていません。(P.106)

シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを1段目まで浅く押し、そのままの状態にすることを半押しといい、2段目まで深く押し込むことを全押しといいます。

4 撮影します。

- 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます(全押し)。
- シャッター音がして、撮影されます。
- 撮影された画像がモニターに表示されます。

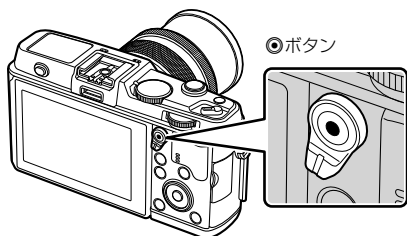
メモ

- タッチパネルを使った撮影もできます。☞「タッチパネルを使う」(P.20)

ムービーを撮る

どの撮影モードに設定されていてもムービー撮影はできます。はじめはカメラにおまかせで撮ってみましょう。

1 モードダイヤルをiAUTOに設定します。

2 ◉ボタンを押して撮影をはじめます。

3 再度◉ボタンを押して撮影を終了します。

注意

- CMOSのカメラの場合は、ローリングシャッターによる動体歪みという現象が発生します。これは、動きの速い被写体や手振れの時に撮影画像に歪みが発生する物理現象です。特に長焦点で使用すると、この現象が顕著になります。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、画像にノイズや色むらが発生します。しばらく電源を切ってください。また、ISO感度が高い設定の画像でもノイズや色むらが発生します。さらに温度が上がると、カメラの電源が切れます。

■ ムービー撮影中の静止画撮影

- ムービーを録画中にシャッターボタンを押すと、録画を一時中断し静止画撮影を行います。静止画を撮影後に録画を再開します。◉ボタンを押すと録画を終了します。カードには静止画撮影前のムービーファイル、静止画ファイル、静止画撮影後のムービーファイルが別々に記録されます。
- 録画中の静止画撮影は1コマ撮影に制限され、セルフタイマーやフラッシュは使用できません。

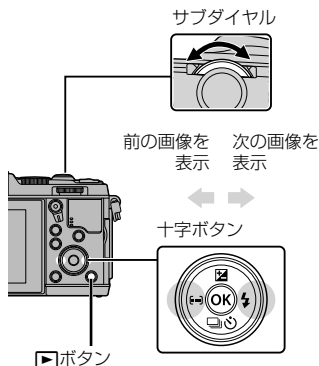
注意

- 静止画とムービーはそれぞれの画質モードで撮影されます。
- 静止画撮影時とムービー撮影時でAFや測光の動作が異なる場合があります。
- 次の場合、◉ボタンを押してもムービー撮影はできません。

  多重露出中(静止画撮影も終了します。)／半押し中／バルブまたはタイム撮影中／連写中／パノラマ撮影中／ 3D撮影中／インターバル撮影中

撮った画像／ムービーを見る

1 ▶ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。
- サブダイヤルや十字ボタンで画像が切り替わります。

静止画

ムービー

インデックス再生／カレンダー再生

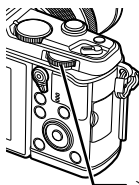
- 1コマ再生でメインダイヤルを▦に回すとインデックス再生します。さらに何度か回すと、最後にカレンダー再生に変わります。
- メインダイヤルをQに回すと1コマ再生に戻ります。

インデックス再生

カレンダー再生

静止画を見る

クローズアップ再生

1コマ再生でメインダイヤルをQに回すと表示を拡大し、▦に回すと1コマ再生に戻ります。

ムービーを見る

- ムービーを選んで㊋ボタンを押すと再生メニューが表示されます。**[ムービープレイ]**を選択して、㊋ボタンを押すとムービー再生が始まります。MENUを押すと中断します。

音量の調節

1コマ再生やムービー再生中に△▽を押すとスピーカーの音量調節ができます。

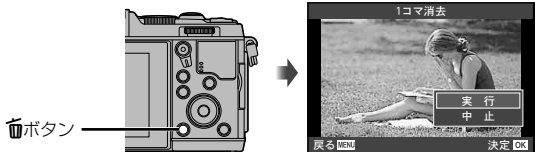
画像のプロテクト(保護)

画像を誤って消さないように保護します。保護したい画像を再生して**Fn**ボタンを押すと、画像にO┳(プロテクトマーク)が付きます。再度**Fn**ボタンを押すと解除されます。
あらかじめプロテクトしたい画像を選んで、一括してプロテクトすることもできます。

注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像も消去されます。

画像の消去(1コマ消去)

消去したい画像を再生し、🗑ボタンを押します。**[実行]**を選択し㊋ボタンを押すと消去されます。

画像の選択

画像の選択をします。複数の選択をして一括してプロテクトや削除をすることができます。☑ボタンを押すと画像が選択され、✔が表示されます。もう一度押すと解除されます。
㊋ボタンを押すと、消去かプロテクトかを選ぶメニューが表示されます。

タッチパネルを使う

モニターを使って撮影するときや再生モードでは、タッチパネルの機能が使えます。また、ライブガイドやLVスーパーコンパネで機能の設定を変更することもできます。

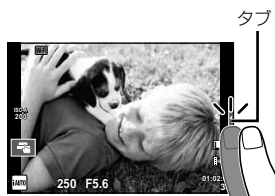
ライブガイドで使う

ライブガイドの操作や設定ができます。☞「ライブガイドを使う」(P.36)

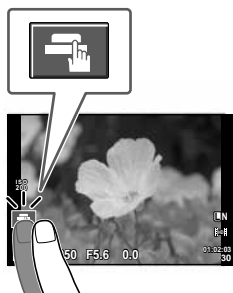
1 タブにタッチすると、ライブガイドが表示されます。

- 項目を選びタッチすると設定可能な状態になります。

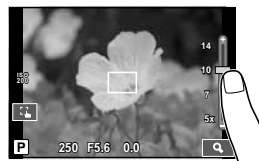
2 レベルバーのスライダーを指で上下させて設定します。

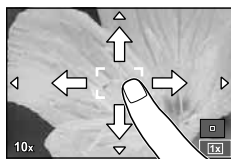
- OKにタッチして設定を確定します。
- ライブガイドの設定を解除するときは、画面のMENUにタッチします。

撮影モードで使う

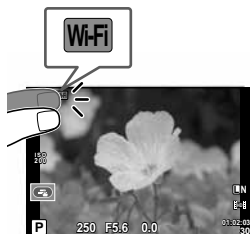
モニターにタッチしてピントを合わせる被写体を選んだり、シャッターを切ることができます。
ボタンにタッチするたびに操作方法が切り換わります。

	タッチ操作を禁止します。
	タッチした箇所にピントを合わせて自動的に撮影します。🎥モードでは使えません。
	タッチした箇所にAFターゲットを表示してピントを合わせます。AFフレームの大きさや位置は指で操作できます。撮影はシャッターボタンを押します。

■ ピントを合わせる被写体を確認する( )

1 ピントを合わせたい被写体にタッチします。

- AFターゲットが表示されます。
- レベルバーを指で上下させると枠の大きさを変えられます。

2 レベルバーでAFターゲットの大きさを調節してから[icon]にタッチすると、枠の位置を拡大表示します。

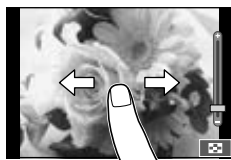
- 拡大中に、タッチした状態で指を動かすとスクロールできます。
- [1x]にタッチすると拡大表示を終了します。

無線LAN機能を使う

スマートフォンと接続してカメラを無線操作することができます。あらかじめスマートフォンにソフトウェアをインストールしておく必要があります。☞「カメラの無線LAN機能を使う」(P.103)、「OI.Shareを使ってできること」(P.105)

再生モードで使う

表示する画像の切り換えや拡大などができます。

■ 1**コマ再生で使う**

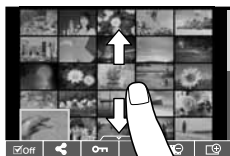
コマ送り／コマ戻し

- タッチした状態で、指を左に動かすとコマ送りし、右に動かすとコマ戻しします。

拡大

- バーのスライダーを指で上下に動かすと拡大表示します。
- 拡大中に、タッチした状態で指を動かすとスクロールできます。
- [icon]にタッチするとインデックス再生になります。
さらに何度かタッチするとカレンダー再生になります。

■ インデックス再生／カレンダー再生で使う

ページを送る／戻す

- タッチした状態で、指を上に動かすとページを送り、下に動かすとページを戻します。
- [icon]または[icon]で表示するコマ数を切り換えられます。
- [icon]に何度かタッチすると1コマ再生に戻ります。

画像を見る

- 見たい画像にタッチすると1コマ表示します。

画像を選択する／プロテクトする

1コマ再生画面で、画面に軽くタッチするとタッチメニューが表示されます。タッチメニューのアイコンにタッチするとそれぞれの操作ができます。

☑	画像を選択する。複数を選択してから一括して削除などができます。
<	Wi-Fi接続でシェアする画像を予約できます。☞［シェア予約］（P.48）
O┳	画像のプロテクトをする。

注意

- 次の場合はタッチ操作できません。
  パノラマ／ 3D ／ e-ポートレート／多重露出中／バルブ撮影またはタイム撮影中／ワンタッチWB取得画面／ボタンまたはダイヤル操作中など
- 先のとがったものや爪で操作しないでください。
- モニター保護シートや手袋を使っていると、うまく操作できない場合があります。
- ART、SCN、[icon]のメニュー画面でも使えます。選択するアイコンにタッチします。

2 基本操作

撮影の基本操作

撮影時の画面表示

① カード書き込み中 P.11
② 無線LAN接続 P.21, 103
③ スーパー FP発光 P.121
④ RCモード P.121
⑤ オートブラケット P.66
⑥ 多重露出 P.68
⑦ 高速フレームレート P.78
⑧ デジタルテレコン P.70
⑨ インターバル撮影 P.69
⑩ 顔優先 P.41
⑪ ムービー録音 P.60
⑫ 焦点距離／内部温度上昇警告 ℃/°F
.... P.118, 109
⑬ フラッシュ P.38
（点滅：充電中、点灯：充電完了）
⑭ 合焦マーク P.16
⑮ 手ぶれ補正 P.53
⑯ アートフィルター P.31
シーン P.32
ピクチャーモード P.54
⑰ ホワイトバランス P.44
⑱ 連写／セルフタイマー P.43
⑲ アスペクト比 P.55
⑳ 画質モード（静止画） P.56
㉑ 画質モード（ムービー） P.57
㉒ 録画可能時間
㉓ 撮影可能枚数 P.114
㉔ ハイライト&シャドウコントロール ... P.37
㉕ 上：フラッシュ補正 P.57
下：露出補正バー P.37
㉖ 露出補正値 P.37
㉗ 絞り値 P.25–28
㉘ シャッター速度 P.25–28
㉙ ヒストグラム P.24
㉚ AEロック P.76, 85
㉛ 撮影モード P.15, 25–34
㉜ マイセット P.63
㉝ タッチ撮影 P.20
㉞ フラッシュ補正 P.57
㉟ ISO感度 P.45
㊱ AF方式 P.59
㊲ 測光方式 P.58
㊳ フラッシュモード P.38
㊴ 電池残量
点灯（緑）：撮影できます。（電源オン後、約10秒間表示します。）
点灯（緑）：電池残量が少なくなっています。
点滅（赤）：充電してください。
㊵ ライブガイド呼び出し P.20, 36

情報表示を切り換える

INFOボタンで撮影時の情報表示の切り換えができます。

ヒストグラム表示

画像の明るさの分布をヒストグラムで表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの画素数を表しています。撮影時は上限値以上の部分を赤、下限値以下の部分を青、スポット測光のエリア内を緑で表示します。

水準器表示

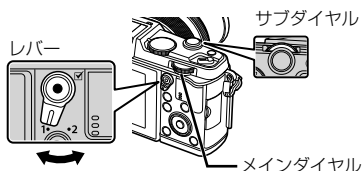
カメラの傾きを表示します。「あおり」方向は縦のバー、「水平」方向は横のバーで表示します。水準器の表示は目安としてお使いください。

撮影モードを使う

カメラまかせで撮影する（Pプログラム撮影）

Pモードは被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する露出モードです。モードダイヤルを**P**にします。

撮影モード
シャッター速度　絞り値

- レバーの位置によって、ダイヤルで設定できる機能が変わります。

ダイヤル	レバーの位置	
	1	2
サブダイヤル	露出補正	ISO
メインダイヤル	プログラムシフト	ホワイトバランス

- カメラが設定したシャッター速度と絞り値が表示されます。
- シャッター速度と絞り値が点滅しているときは、適正露出が得られません。

警告表示例（点滅）	状態	対処方法
60" F2.8	被写体が暗すぎます。	• フラッシュを使用してください。
8000 F22	被写体が明るすぎます。	• カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター（光量調節用）が必要です。

- 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。
- ［ISO感度］の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☞［ISO感度］（P.45）

プログラムシフト（Ps）

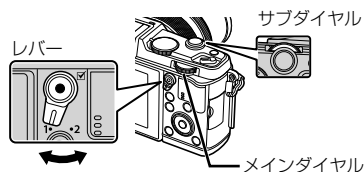
PモードやARTモードでは、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます。プログラムシフトになると、撮影モードの横に「**s**」が表示されます。プログラムシフトを解除するには、「**s**」が消えるまでダイヤルを回します。

プログラムシフト

注意

- フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

絞りを決めて撮影する（A絞り優先撮影）

Aモードは、絞り値を設定するとカメラが適正なシャッター速度を自動的に設定する露出モードです。モードダイヤルを**A**にします。

ダイヤル	レバーの位置	
	1	2
	露出補正	ISO
	絞り値	ホワイトバランス

- 絞り（F値）を開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。

絞り値

絞り値の設定例

絞り値を小さくする← →絞り値を大きくする

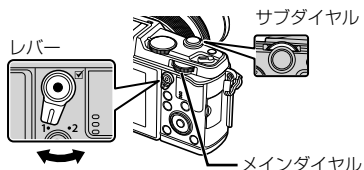
F2← F3.5← **F5.6** →F8.0 →F16

- シャッター速度が点滅しているときは、適正露出が得られません。

警告表示例（点滅）	状態	対処方法
30" F5.6	露出アンダーです。	• 絞り値を小さくしてください。
8000 F5.6	露出オーバーです。	• 絞り値を大きくしてください。 • それでも解消されないときは、カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター（光量調節用）が必要です。

- 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。
- ［ISO感度］の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☞［ISO感度］（P.45）

シャッター速度を決めて撮影する（Sシャッター優先撮影）

Sモードは、シャッター速度を設定するとカメラが適正な絞り値を自動的に設定する露出モードです。モードダイヤルを**S**にします。

ダイヤル	レバーの位置	
	1	2
	露出補正	ISO
	シャッター速度	ホワイトバランス

- シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影できます。シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されますが、躍動感や動きのある仕上がりになります。

シャッター速度

シャッター速度の設定例

シャッター速度を遅くする← →シャッター速度を早くする

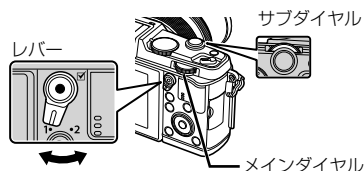
2"← 1"← 15← **60** →100 →400 →1000

- 絞り値が点滅しているときは、適正露出が得られません。

警告表示例（点滅）	状態	対処方法
2000 F2.8	露出アンダーです。	• シャッター速度を遅くします。
125 F22	露出オーバーです。	• シャッター速度を速くします。 • それでも解消されないときは、カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター（光量調節用）が必要です。

- 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。
- ［ISO感度］の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☞［ISO感度］（P.45）

絞りとシャッター速度を自分で決める（Mマニュアル撮影）

Mモードは絞り値とシャッター速度を自分で設定する露出モードです。シャッターボタンを押している間露光し続けるバルブ撮影にも設定できます。モードダイヤルを**M**にします。

ダイヤル	レバーの位置	
	1	2
サブダイヤル	絞り値	ISO
メインダイヤル	シャッター速度	ホワイトバランス

- シャッター速度は1/8000 ～ 60秒、**[BULB]**および**[LIVE TIME]**に設定できます。

注意

- **M**モードでは、露出補正はできません。

露出終了タイミングを決めて撮影する（バルブ撮影／タイム撮影）

花火や夜景などの撮影に使います。**M**モードでシャッター速度を**[BULB]**または**[LIVE TIME]**に設定します。

バルブ撮影（BULB）： シャッターボタンを押している間、露光を続けます。シャッターボタンを放すと露光が終了します。

タイム撮影（TIME）： シャッターボタンを全押しすると露光を始めます。露光を終了するときは、もう一度シャッターボタンを全押しします。

- バルブ／タイム撮影中は、画面の明るさが自動的に変わります。
- **[LIVE TIME]**では、撮影中の画面が表示されます。また、シャッターボタンを半押ししても表示を更新できます。
- バルブ撮影でも、**[ライブBULB設定]**を使って露光中に画像を表示することができます。☞「カスタムメニューを使う」（P.76）

注意

- ライブBULB、ライブTIME撮影で設定できるISO感度は1600までです。
- バルブ撮影、タイム撮影はカメラのぶれを抑えるために、しっかりした三脚でカメラを固定して、リモートケーブル（P.123）を使ってください。
- バルブ撮影、タイム撮影中は、以下の機能は使用できません。
  連写／セルフタイマー撮影／ AEブラケット撮影／手ぶれ補正／
  フラッシュブラケット／多重露出*
  * **[ライブBULB設定]**または**[ライブTIME設定]**が**[Off]**以外のとき

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に表れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラは長秒時ノイズ低減が働きます。☞ **[長秒時ノイズ低減]**（P.79）

ムービーモード(🎥)を使う

ムービーモード(🎥)にすると、効果を使ったムービー撮影ができます。
静止画の撮影モードの効果を活かしたムービー撮影が可能です。ライブコントロールで設定を選択します。☞「ムービーに効果をつける」(P.55)
また、ムービー撮影中に残像を残したり、一部を拡大するなどの効果を使うことができます。

ムービーに効果をつける[動画エフェクト]

1 モードダイヤルを🎥に設定します。

2 ◉ボタンを押して撮影をはじめます。

- 撮影を終了するときはもう一度◉ボタンを押します。

3 効果を使うときに画面のアイコンにタッチします。

- アイコンに表示されているボタンを使うこともできます。

	マルチエコー	残像効果をつけます。動きのある被写体の残像を残したムービーが撮影できます。
	ワンショットエコー	ボタンを押したときの画像をしばらく残像として残します。残像は時間が経つと自動的に消えます。
Fn	アートフェード	選択したピクチャーモードの効果で撮影できます。切り換わり時は、フェード効果がつきます。
	ムービーテレコン	レンズのズームを使わずに、画面の一部を拡大します。カメラを固定したままでも画面の選んだ位置の拡大をすることができます。

2
基本操作

マルチエコー

アイコンをタッチすると効果が反映されます。もう一度タッチすると解除されます。

ワンショットエコー

アイコンをタッチするたびに効果が加えられます。

アートフェード

アイコンをタッチします。使用するピクチャーモードにタッチして指を離したときに、効果が反映されます。

ムービーテレコン

1 アイコンにタッチして拡大枠を表示します。

- タッチ操作または、△▽◁▷で拡大枠の位置を変更できます。
- ⓞボタンを長押しすると拡大枠は中央に戻ります。

2 [拡大アイコン]にタッチするか、Qボタンを押して拡大表示します。

- [拡大アイコン]にタッチするかQボタンを押すと元の表示に戻ります

3 [終了アイコン]にタッチするかⓞボタンを押すと、拡大枠が消えてムービーテレコンモードから抜けます。

注意

- 撮影中はフレームレートが少し遅くなります。
- 同時に2つの効果を使うことはできません。
- SDスピードクラス6以上に対応したカードをお使いください。それ以外のカードを使うと、撮影が途中で終了することがあります。
- ムービー撮影中に静止画撮影を行うと効果は解除され、また、撮影した静止画に効果は反映されません。
- **[ジオラマ]**とアートフェードは、併用できません。
- **[ピクチャーモード]**が**[ART]**に設定されていると、ムービーテレコンは使用できません。
- タッチ操作やボタンの操作音が録音されることがあります。
- タッチ操作の他にアイコンに表示されているボタン操作でも効果を使用できます。

アートフィルターを使う

1 モードダイヤルをARTに設定します。

- アートフィルターメニューが表示されます。△▽でフィルターを選択します。
- ⓞⓚボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると設定が確定され、アートフィルターメニューを終了します。

■ アートフィルターの種類

ART1 ポップアート
ART2 ファンタジックフォーカス
ART3 デイドリーム
ART4 ライトトーン
ART5 ラフモノクローム
ART6 トイフォト
ART7 ジオラマ
ART8 クロスプロセス
ART9 ジェントルセピア
ART10 ドラマチックトーン
ART11 リーニュクレール
ART12 ウォーターカラー
ART BKT ART BKT（アートフィルターブラケット）

2 撮影します。

- 他の設定を選ぶときは、ⓞⓚボタンを押すとアートフィルターメニューを表示できます。

アートフィルターブラケット

1回の撮影で全てのアートフィルター画像を記録します。**[詳細▶]**で記録するフィルターの選択ができます。

アートエフェクト機能

アートフィルターの雰囲気を変えたり、エフェクト（効果）をつけることができます。
アートフィルターメニューで▷ボタンを押すと設定画面が表示されます。

雰囲気変更

Ⅰ：オリジナルのアートフィルター、Ⅱ以降：オリジナルに対して変化をつけたもの

エフェクト（効果）の追加*

ソフトフォーカス効果、ピンホール効果、枠（フレーム）効果、ホワイトエッジ効果、スターライト効果、フィルター効果、調色

* アートフィルターごとに異なります。

注意

- 画質モードが**[RAW]**のときは、自動的に**[LN+RAW]**に設定されます。アートフィルターの効果はJPEG画像にのみ適用されます。
- 撮影シーンによっては階調が崩れたり、補正の効きが弱くなったり、また画像の粗さが強調される場合があります。
- エフェクトの設定によっては、ライブビューやムービー撮影に反映しないものもあります。
- フィルター、効果、ムービーの画質設定によっては、再生時の動きが異なります。

シーンモードを使う

1 モードダイヤルをSCNに設定します。

- シーンメニューが表示されます。△▽でシーンを選択します。
- ⊛ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると設定が確定され、シーンメニューを終了します。

■ シーンモードの種類

ポートレート	ハイキー	パノラマ(P.33)
eポートレート	ローキー	打ち上げ花火
風景	ぶれ軽減	ビーチ&スノー
風景&人物	マクロ	フィッシュアイ
スポーツ	ネイチャーマクロ	ワイド
夜景	キャンドル	マクロ
夜景&人物	夕日	3D
チャイルド	文書	

2 撮影します。

- 他の設定を選ぶときは、⊛ボタンを押すとシーンメニューを表示できます。

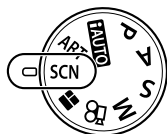
注意

- **[eポートレート]**では、効果適用前と適用後の画像の2枚が同時に記録されます。記録に時間がかかることがあります。
- **[フィッシュアイ]**、**[ワイド]**、**[マクロ]**は別売のコンバーターレンズを使用したときに使うシーンです。
- **[eポートレート]**、**[パノラマ]**、**[3D]**ではムービー撮影はできません。
- **[3D]**は以下の制限があります。
  3D撮影専用レンズ以外では使用できません。
  本機のモニターでは3D再生はできません。専用の3D対応機器で再生してください。
  ピントは固定されます。また、フラッシュ、セルフタイマーも使用できません。
  画像サイズは1920×1080に固定されます。
  RAW撮影はできません。
  視野率は100%ではありません。

2 基本操作

パノラマ写真を撮影する

撮った画像をつなぎ合わせて、パノラマ合成画像を作成できます。パノラマ合成をするには、お使いのパソコンに付属のPCソフトウェアをインストールする必要があります。☞「パソコンに接続する」（P.100）

1 モードダイヤルをSCNに設定します。

2 [パノラマ]を選択して、ⓄⓀボタンを押します。

3 △▽◁▷で画像をつなぐ方向を選びます。

4 ガイド枠を目安に、1コマ目を撮影します。

- ピントや露出などは、1コマ目の撮影で決定されます。

5 ガイド枠内が、前の画像と重なる構図で次のコマを撮影します。

- 最大10枚までの撮影と合成が可能です。10枚撮り終わると✋（警告）マークが表示されます。

6 最後のコマを撮影した後にⓄⓀボタンを押して、パノラマ撮影を終了します。

ⓘ 注意

- パノラマ撮影時には、前に撮影した位置合わせ用の画像は表示されません。画像に表示される枠や目印となる被写体を目安に、重なり合う画像の端が枠の中に重なるように構図を設定してください。

メモ

- 1コマ目の撮影前にⓄⓀボタンを押すと、シーンモードの選択メニューに戻ります。
  撮影の途中でⓄⓀボタンを押すと、一連のパノラマ撮影を終了し、続けて次のパノラマ撮影ができます。

フォトストーリーモードを使う

1 モードダイヤルを[フォトストーリー]に設定します。

- フォトストーリーメニューが表示されます。

[1]	スタンダード
[2]	ファンフレーム

2 △▽でフォトストーリーのテーマを選択します。

- 詳細で各テーマの効果や分割数、アスペクト比のなるフォトストーリーを選択することができます。さらに、アスペクトや分割パターン、フレームエフェクトを個別に変更することもできます。

バリエーションを変更する

Ⅰ	オリジナルのフォトストーリー
Ⅱ Ⅲ Ⅳ	オリジナルに対して効果、アスペクト比を変えたもの。 テーマごとに分割数、分割領域を変更できます。

- バリエーションごとにフレームの色やフレーム周辺部のエフェクトを変更できます。
- テーマ、バリエーションごとに異なります。

3 設定を終えたらⓄⓀボタンを押します。

- フォトストーリー用のモニター表示になります。
- 撮影されるフレームに被写体がライブビュー表示されます。
- マスクされているフレームにタッチすると、撮影されるフレームを切り換えることができます。

4 1フレーム目を撮影します。

- はじめのフレームに撮影画像が表示されます。

5 次のフレームを撮影します。

- 次のフレームに表示される被写体を見て撮影します。
- [消去]ボタンを押すと、直前に撮ったフレームの画像をキャンセルして撮りなおしできます。
- 撮影画像をタッチすると、そのフレームの画像をキャンセルして撮りなおしできます。

撮影画像

次のフレーム
（ライブビュー表示）

6 すべてのフレームを撮影した後に、⊛ボタンを押して画像を保存します。

メモ

- フォトストーリー撮影中でも、以下の操作ができます。
  露出補正／プログラムシフト／フラッシュ撮影／ライブコントロール機能の設定

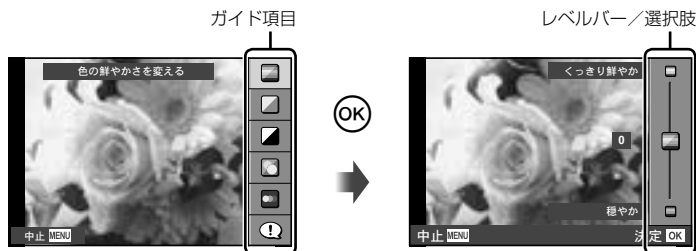
注意

- 撮影途中で電源をオフにすると、それまでの撮影データはすべてキャンセルされ、カードには記録されません。
- 画質モードが[**RAW**]のときは、[**LN＋RAW**]に設定されます。フォトストーリーの画像をJPEGで、それぞれのフレームの画像をRAWで保存します。RAW画像は、[**4：3**]で保存されます。
- 設定できる[**AF方式**]は[**S-AF**]、[**MF**]、[**S-AF+MF**]です。
  また、AFターゲットは中央1点に固定されます。
- 測光方式は、デジタルESP測光に固定されます。
- フォトストーリーモードでは下記の操作はできません。
  MENU表示／ムービー撮影／連写／セルフタイマー／ INFO表示／顔優先AF ／デジタルテレコン／ピクチャーモード
- 以下のボタン操作はできません。
  🔍 ／ [▪▪▪] ／ **Fn** ／ INFO ／ ▶ ／ MENU　など
- フォトストーリー撮影中は、スリープモードには入りません。

2 基本操作

撮影機能を使う

ライブガイドを使う

iオートモード(iAUTO)にはライブガイドの機能が用意されています。iオートモードはすべてカメラまかせで撮影するモードですが、ライブガイドを使うとより上級の写真表現を使った撮影を簡単にすることができます。

1 モードダイヤルをiAUTOに設定します。

2 **Fn**ボタンまたは㊉ボタンを押してライブガイドを表示し、十字ボタンの△▽でガイド項目を選択し㊉ボタンを押します。

3 △▽でレベルを選択します。

- **[撮影のヒント]**を選んだときは、項目を選び㊉ボタンを押すと説明が表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると設定が確定します。
- レベルを選択すると画面で効果を確認できます。**[背景をぼかす]**、**[動きを表現する]**では設定を確定すると元の表示に戻りますが、撮影した画像に効果は反映されます。

4 撮影します。

- シャッターボタンを押して撮影します。
- MENUボタンを押すとライブガイドは終了します。

注意

- 画質モードが**[RAW]**のとき、自動的に**[LN+RAW]**に設定されます。
- ライブガイド設定はRAW画像には適用されません。
- ライブガイドの設定レベルによっては、画像の粗さが強調される場合があります。
- ライブガイドの設定レベルを変えても、効果をライブビューであまり確認できない場合があります。
- **[動きを流す]**では表示のフレームレートが遅くなります。
- ライブガイドではフラッシュは無効です。
- ライブガイド項目を変更すると、前の項目の設定はキャンセルされます。
- ライブガイドの設定がカメラの連動範囲外になると、白く飛んだり暗い画像になる場合があります。

2 基本操作

こんなときは

iAUTOモード以外は、ライブコントロールを使って、より細かい設定ができます。
☞「ライブコントロールを使う」（P.52）

画像の明るさを変えて撮影する（露出補正）

サブダイヤルを回して露出補正を行います。+補正にするとより明るく、–補正にするとより暗く表現できます。±3.0EVの範囲で補正できます。

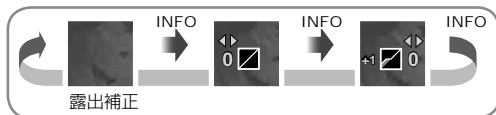
–補正　補正0　+補正

注意

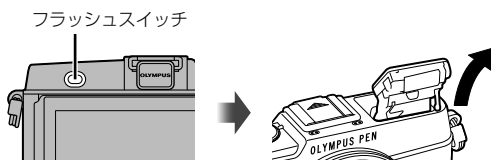
- iAUTO、M、SCNでは、露出補正はできません。

ハイライト部／シャドウ部の明るさを変えて撮影する

ボタン（△）を押して、INFOボタンを押すとトーンコントロール設定画面になります。◁▷で補正を行います。トーン・ローで–補正にすると暗い部分をより暗く引き締め、トーン・ハイで+補正をすると明るい部分をより明るく表現します。

露出補正

フラッシュを使って撮影する(フラッシュ撮影)

フラッシュを必要だと判断したときに、手動で設定します。目的に応じていろいろなフラッシュ撮影が行えます。

1 フラッシュスイッチを押して、フラッシュをポップアップさせます。

2 ⚡ボタン(▷)を押して、選択項目を表示させます。

3 ◁▷でフラッシュ発光モードを選択し、Ⓞボタンを押します。

- 撮影モードによってフラッシュ発光モードの種類と並びの順番は異なります。
☞「撮影モード別使用可能なフラッシュ発光モード」(P.39)

AUTO	**オート発光**	暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
⚡	**強制発光**	フラッシュを必ず発光させます。
ⓕ	**発光禁止**	フラッシュは発光しません。
👁/⚡👁	**赤目軽減発光**	人物の目が赤く写る現象を起こりにくくします。**S**、**M**モードでは強制発光になります。
⚡SLOW	**スローシンクロ(先幕シンクロ)**	背景が明るく撮れるように遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。
👁SLOW	**スローシンクロ(先幕シンクロ)+ 赤目軽減発光**	スローシンクロと赤目軽減発光を併用します。
⚡SLOW2/ 2nd Curtain	**スローシンクロ(後幕シンクロ)**	移動方向の後ろに流れた写真にするために、シャッターを閉じる直前で発光します。
⚡FULL、**⚡1/4**など	**マニュアル発光**	マニュアル操作で撮影をする人向け。**INFO**ボタンを押すと、ダイヤルで発光量を選べます。

4 シャッターボタンを全押しします。

注意

- **[👁/⚡👁 (赤目軽減発光)]**では、最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。撮影が終わるまでカメラを動かさないでください。
- 撮影状況によっては、**[👁/⚡👁 (赤目軽減発光)]**の効果が得られないことがあります。
- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/320秒以下に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。

撮影モード別使用可能なフラッシュ発光モード

撮影モード	LV スーパーコンパネの表示	フラッシュ発光モード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
P/A	AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光のとき発光	1/30秒～ 1/320秒*
		オート発光（赤目軽減）			
		強制発光		いつでも発光	30秒～ 1/320秒*
		発光禁止	—	—	—
	SLOW	スローシンクロ（赤目軽減）	先幕シンクロ	暗いとき、逆光のとき発光	60秒～ 1/320秒*
	SLOW	スローシンクロ（先幕シンクロ）			
	SLOW2	スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ		
S/M		強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	60秒～ 1/320秒*
		強制発光（赤目軽減）			
		発光禁止	—	—	—
	2nd-C	強制発光／スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ	いつでも発光	60秒～ 1/320秒*

- iAUTOではAUTO、のみ選択できます。

* 別売の専用フラッシュ使用時は、1/250秒

至近限界

被写体が近いとレンズの影になったり、発光量を最小にしても強すぎる場合があります。

レンズ	影になる限界(目安)
14–42 mm	1.4m
17 mm	0.25m
40–150 mm	1.0m
14–150 mm	使用不可
12–50 mm	使用不可

- 影を防ぐには専用外部フラッシュをお使いください。また、露出オーバーを防ぐには**A**、**M**モードなどで絞り値を大きく、ISO感度を小さく設定して撮影します。

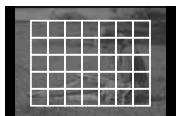
ピントの位置を自分で決める（AFターゲット選択）

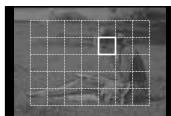
35点の中から、ピント合わせに使うAFターゲットを選びます。

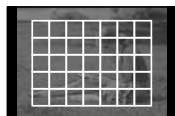
1 [･･･]ボタン（◁）を押して、AFターゲットを表示します。

2 ダイヤルを回してAF位置を選択します。

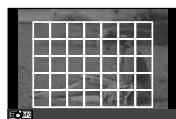
- 端の枠からさらに外側に移動させるとオールターゲットに戻ります。

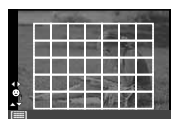
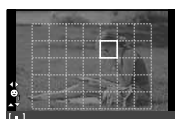
オールターゲット

すべてのAFターゲットから、カメラがピントを合わせるAFターゲットを自動的に選びます。

シングルターゲット

ピント合わせをするAFターゲットを手動で選びます。

オールターゲット

AFターゲット設定

ターゲットの選択方法や、ターゲットのサイズを変更できます。また、顔優先AF（P.41）を選択することができます。

1 AFターゲット選択中にINFOボタンを押して△▽で選択方法を選びます。

INFO

△▽

[▦]（オールターゲット）	すべてのAFターゲットから自動的にカメラが選びます。
[▪]（シングルターゲット）	1つのAFターゲットを選びます。
[⁞⁞⁞]（グループターゲット）	選択したグループの中からカメラが自動的にピントを合わせるAFターゲットを選びます。
[▪]s（スモールターゲット）	サイズの小さいAFターゲットに変更できます。

2 基本操作

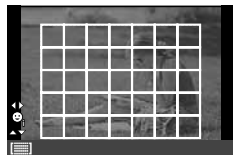
顔優先AF ／瞳検出AFを使う

カメラが自動的に人物の顔を検出して、ピント合わせやデジタルESP測光の調整を行います。

1 [···]ボタン(◁)を押して、AFターゲットを表示します。

2 INFOボタンを押します。

- AFターゲットの選択方法の変更ができます。

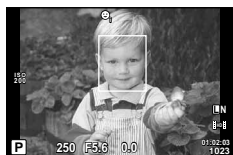
3 ◁▷で設定を選択して、Ⓞボタンを押します。

OFF	**顔優先Off**	顔優先AFを行いません。
☺	**顔優先On**	顔優先AFを行います。
☺i	**顔・瞳優先On**	近いほうの瞳を検出して顔優先AFを行います。
☺iR	**顔・瞳(右側)優先On**	被写体の右側の瞳を検出して、顔優先AFを行います。
☺iL	**顔・瞳(左側)優先On**	被写体の左側の瞳を検出して、顔優先AFを行います。

4 カメラを被写体に向けます。

- 顔が検出されたら白い枠が表示されます。

5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- 枠の顔にピントが合うと、枠が緑に変わります。
- 被写体の目を検出できるときは、設定されたほうの目にピントが合い緑の枠が表示されます。
（瞳検出AF）

6 シャッターボタンを全押しします。

注意

- 連写中は最初の1コマのみ顔優先機能が働きます。
- 被写体やアートフィルターの設定によっては、顔が検出できないことがあります。
- **[▣（デジタルESP測光)]**では顔を優先して測光します。

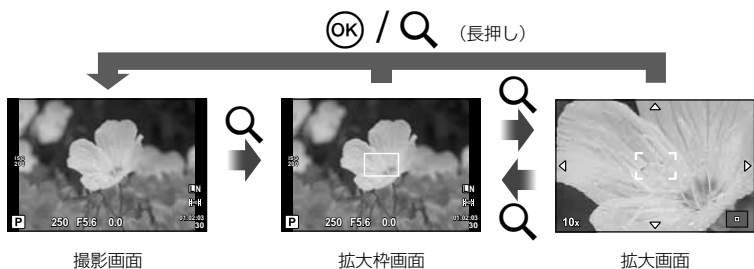
メモ

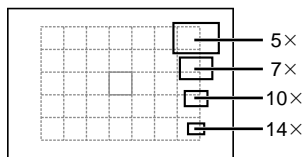
- **[MF]**でも顔の検出ができます。顔を検出すると白い枠が表示されます。

拡大枠AF ／拡大AFを使う

画面の一部を拡大してピント合わせをすることができます。拡大倍率を高くして通常のAFターゲット枠より小さい範囲でオートフォーカスすることができます。また、より細かく位置の変更ができます。

（長押し）

撮影画面　　拡大枠画面　　拡大画面

1 ボタンを押して拡大枠を表示します。

- 直前にオートフォーカスでピント合わせをしたときは、その位置に拡大枠が表示されます。
- △▽◁▷で位置を変更できます。
- INFOボタンを押して、△▽で拡大倍率を変更できます。

AFフレームと拡大枠の大きさの比較

2 再度ボタンを押して拡大枠の部分を拡大表示します。

- △▽◁▷で位置を変更できます。
- ダイヤルを回して拡大倍率を変更できます。

3 シャッターボタンを半押ししてAF動作します。

- 画面中央の枠の中でピントが合わせられます。ピント合わせの位置を変えるときは、タッチ操作で画面を移動します。

メモ

- タッチ操作でも拡大枠の表示や移動をすることができます。

注意

- 拡大表示はモニター上の表示のみです。実際に拡大されて写ることはありません。

連写する／セルフタイマーを使う

シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影ができます。また、セルフタイマーによる撮影もできます。

1 ボタン（▽）を押して、選択項目を表示させます。

2 ◁▷で項目を選択し、ボタンを押します。

□	**単写**	一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。
H	**連写H**	シャッターボタンを全押ししている間、約9コマ/秒で連続撮影できます。
L	**連写L**	シャッターボタンを全押ししている間、約5コマ/秒で連続撮影できます。
12s	**セルフタイマー12s**	シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しするとセルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、撮影されます。
2s	**セルフタイマー2s**	シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しするとセルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、撮影されます。
C	**セルフタイマーカスタム**	撮影枚数を設定できます。を選択して**INFO**ボタンを押してダイヤルを回します。

メモ

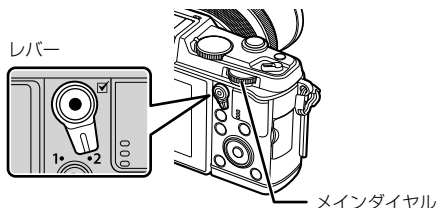
- セルフタイマー作動中に撮影を中止するには、ボタン（▽）を押します。
- AF方式が[**S-AF**]または[**MF**]の場合、連写中のピント、露出は最初の1コマで固定されます。

注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
- セルフタイマー撮影時に、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがボケる原因になります。

画像の色合いを調整する(ホワイトバランス)

ホワイトバランス(WB)は白いものを白く写すための機能です。通常は**[AUTO]**(オート)で問題ありませんが、適切な白にならない場合や、逆に色合いを出したい場合は光源に合わせて、**[AUTO]**以外のホワイトバランスを手動で設定します。

1 レバーを2の位置に合わせて、メインダイヤルを回して項目を選択します。

WB モード		設定される色温度	適した撮影シーン
オート ホワイトバランス	AUTO	—	一般的なほとんどの撮影シーン(画面内に白に近い色が存在する撮影シーン)。通常はこのモードをお使いください。
プリセット ホワイトバランス	☼	5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
	(日陰)	7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
	(曇天)	6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
	(電球)	3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
	(蛍光灯)	4000K	蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
	WB⚡	5500K	フラッシュ撮影のとき
ワンタッチ ホワイトバランス (P.45)	(ワンタッチ1)/(ワンタッチ2)	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度	白かグレーの測定できる被写体があり、特性のわからないフラッシュや光源のときや、光源が複数あって特定できないとき
カスタム ホワイトバランス	CWB	2000K ~ 14000K	INFOボタンを押した後、◁▷で色温度を選択し、Ⓞボタンを押します。

ワンタッチホワイトバランスの設定

撮影する光源下で白い紙などにカメラを向けて、ホワイトバランスを測定します。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた撮影に有効です。

1 [ワンタッチ1]または[ワンタッチ2]（ワンタッチホワイトバランス1または2）を選択した後、INFOボタンを押します。

2 白かグレーのように無彩色の紙を撮影します。

- 紙が画面いっぱいに写るようにカメラを構えます。影の部分ができないようにしてください。
- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

3 [実行]を選択してOKボタンを押します。

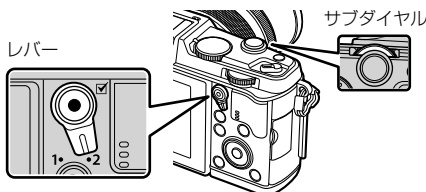
- ホワイトバランスがプリセットホワイトバランスの1つとしてカメラに登録されます。
- 新しいワンタッチホワイトバランスを撮影するまで、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

- 明るすぎる、暗すぎる、極端な色味の場合は**[不適切なデータです 撮り直してください]**と表示され登録できません。撮影条件を変えて、手順1からやりなおしてください。

感度を変更する（ISO感度）

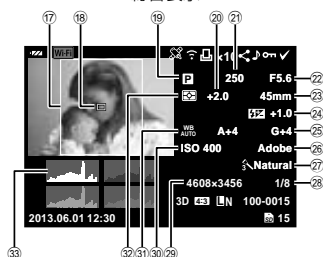
ISO感度の数値を大きくするとノイズ（ざらつき）が大きくなりますが、暗いところでの撮影が可能になります。通常は、ノイズと階調のバランスのとれたISO200を基準とし、撮影状況に応じて感度が変わる**[AUTO]**のご使用をおすすめします。

1 レバーを2にセットして、サブダイヤルを回して項目を選択します。

AUTO	撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。
LOW、200 ～ 25600	ISO感度を選択できます。

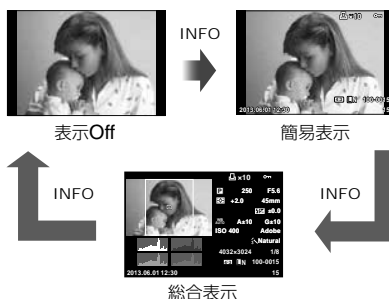
2
基本操作

再生の基本操作

再生時の画面表示

簡易表示　　　　　　　　　　総合表示

① 電池残量 P.13
② 無線LAN接続 P.21, 103
③ GPS位置情報有り P.105
④ Eye-Fi送信完了 P.83
⑤ プリント予約
　 プリント枚数 P.96
⑥ シェア予約 P.48
⑦ 録音...P.50
⑧ プロテクト（保護）............................P.50
⑨ 画像選択 P.19
⑩ ファイル番号 P.82
⑪ コマ番号
⑫ 記録メディア P.113
⑬ 画質モード P.56
⑭ アスペクト比 P.55
⑮ 3D画像 P.32
⑯ 日時...P.14
⑰ アスペクト枠 P.55
⑱ AFターゲット表示 P.40
⑲ 撮影モード P.15, 25–33
⑳ 露出補正 P.37
㉑ シャッター速度.........................P.25–28
㉒ 絞り値....................................P.25–28
㉓ 焦点距離 P.118
㉔ フラッシュ補正...............................P.57
㉕ ホワイトバランス補正値 P.44
㉖ カラー設定 P.81
㉗ ピクチャーモード............................P.54
㉘ 圧縮率..P.56
㉙ ピクセルサイズ................................P.56
㉚ ISO感度..P.45
㉛ ホワイトバランス.............................P.44
㉜ 測光方式 P.58
㉝ ヒストグラム P.24

情報表示を切り換える

INFOボタンで再生時の情報表示の切り換えができます。

再生時の操作

▶ボタンを押すと、画像が1コマで再生されます。シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。

インデックス再生／カレンダー再生

クローズアップ再生

メインダイヤル（ ）	表示の拡大（ ）／インデックス（ ）
サブダイヤル（ ）	コマ戻し（ ）／コマ送り（ ） クローズアップ再生中も操作できます。
十字ボタン （△▽◁▷）	1コマ再生：コマ送り（▷）／コマ戻し（◁）／再生音量調節（△▽） クローズアップ再生： クローズアップ位置の変更 INFOボタンを押すとクローズアップしたままコマ送り（▷）戻し（◁）ができます。 インデックス再生／カレンダー再生：画像の選択
🔍	拡大枠を表示します。タッチ操作で位置を決めてもう一度🔍ボタンを押すと拡大表示します。やめるときは、🔍ボタンを押します。
INFO	画像情報の表示
☑	画像の選択（P.19）
Fn	画像のプロテクト（P.19）
🗑	画像の消去（P.19）
Ⓞ	メニューの表示（カレンダー再生中に押すと1コマ再生に戻ります。）

Wi-Fi接続を使って画像を公開する(シェア予約)

本機の無線LAN機能(P.103)を使ってスマートフォンと接続することができます。接続すると、カードに記録された画像をスマートフォンで閲覧、送信することができます。
[シェア予約]では、あらかじめ公開する画像を選択しておくことができます。

1 再生画面で画面にタッチします。

- 画面にタッチメニューが表示されます。

2 タッチ操作または◁▷で画像を選択し、タッチメニューのにタッチします。

- 予約が設定されて画像にが表示されます。
- 予約を解除するときは、もう一度にタッチします。

3 画面にタッチすると**[シェア予約]**を終了します。

- シェア予約された画像があるときは、**[ワンタイム接続]**でWi-Fi接続すると、シェア予約された画像のみ公開されます。

注意

- シェア予約できるコマは約200コマです。

2 基本操作

再生機能を使う

再生画面で㊪ボタンを押すと、再生モードで使える簡単な機能のメニューが表示されます。

	静止画コマ	ムービーコマ
JPEG編集・RAW編集　☞　P.71, 72	○	—
画像合成　☞　P.73	○	—
ムービープレイ	—	○
シェア予約　☞　P.48	○	○*
プロテクト	○	○
録音	○	—
回転	○	—
スライドショー	○	○
1コマ消去	○	○

*　［SD］［HD］のムービーはできません。

ムービーコマを操作する（ムービープレイ）

<table>
<tr><td rowspan="4">OK</td><td colspan="2">ムービーを一時停止／再開します。
• 一時停止中に以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◁▷またはダイヤル</td><td>コマ戻し／コマ送り
◁▷を押し続けると動作を続けます。</td></tr>
<tr><td>△</td><td>先頭のフレームを表示します。</td></tr>
<tr><td>▽</td><td>最後のフレームを表示します。</td></tr>
<tr><td>◁/▷</td><td colspan="2">ムービーの早送り、巻き戻しを行います。</td></tr>
<tr><td>△/▽</td><td colspan="2">音量の調節ができます。</td></tr>
</table>

注意

- パソコンでのムービー再生には付属のPC用ソフトウェアをおすすめします。はじめてソフトウェアをお使いになる際は、カメラをパソコンに接続してからソフトウェアを起動してください。

画像のプロテクト（保護）

画像を誤って消さないように保護します。保護したい画像を表示して⊛ボタンを押すと、再生メニューが表示されます。**[プロテクト]**を選び⊛ボタンを押したあと、△を押すと画像がプロテクトされます。O┳（プロテクトマーク）が表示されます。プロテクトを解除するには▽を押します。
あらかじめプロテクトしたい画像を選んで、一括してプロテクトすることもできます。☞「画像の選択」（P.19）

注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像も消去されます。

音声録音

静止画に音声を録音します（最長30秒）。

1 再生画面で音声を録音する画像を表示し、⊛ボタンを押します。

- プロテクトされた画像には録音できません。
- 音声録音は再生メニューからも設定できます。

2 **[録音]**を選択して、⊛ボタンを押します。

- 録音を中止する場合は、**[中止]**を選択してください。

3 **[録音スタート]**を選択して⊛ボタンを押すと、録音を開始します。

- 途中で録音を中止するときは⊛ボタンを押します。

4 ⊛ボタンを押して、録音を終了します。

- 音声を録音した画像には♪が表示されます。
- 録音した音声を消去する場合は、手順2で**[消去]**を選択してください。

回転

撮影した画像を回転させることができます。

1 再生画面で画像を表示し、⊛ボタンを押します。

2 **[回転]**を選択して、⊛ボタンを押します。

3 △（反時計回り）、▽（時計回り）を押すたびに画像が回転します。

- ⊛ボタンを押して、設定を終了します。
- 回転表示した画像はその状態でカードに記録されます。
- ムービーや3D画像、プロテクトされている画像は回転できません。

スライドショー

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。

1 再生画面で⊛ボタンを押し、[スライドショー]を選択します。

2 スライドショーの設定をします。

スタート	スライドショーを開始します。表示している画像から､順に再生されます。
BGM	3種類のBGM、または**[Off]**を設定します。
効果*	画像が切り替わるときの表示効果を選べます。
スライド	再生する画像の種類を設定します。
1コマ再生時間	次の画像に切り換わる間隔を2 ～ 10秒の間で設定します。
ムービー再生	ムービーを再生するときに、ムービー全編を再生する**[フル]**か、途中までの部分を再生する**[ショート]**を設定します。

* [フェード]以外の効果を設定した場合、ムービーは表示されません。

3 [スタート]を選択して⊛ボタンを押します。

- スライドショーが始まります。
- ⊛ボタンを押すとスライドショーが停止します。

スライドショー音量について

スライドショーの再生中に△▽を押すと、全体の音量が調節できます(カメラのスピーカーでの再生時のみ)。◁▷を押すと、画像やムービーに録音した音量とBGMのバランスを調節できます。

メモ

- **[Beat]**を他のBGMに変えることができます。当社ホームページからダウンロードしたデータをカードに記録して、手順2で**[BGM]**から**[Beat]**を選んで▷ボタンを押します。ダウンロードについては下記のホームページをご覧ください。
  http://support.olympus-imaging.com/bgmdownload/

2 基本操作

3 ライブコントロール

ライブコントロールを使う

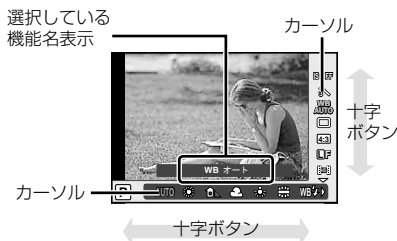
P/**A**/**S**/**M**/🎥/▮モードではライブコントロールによって機能の設定ができます。ライブコントロールを使うと、画面で効果を確認しながら撮影機能の設定をすることができます。

■ 設定できる機能

1 Ⓞボタンを押してライブコントロールを表示します。

- 再度Ⓞボタンを押すとライブコントロールの表示が消えます。

2 △▽でカーソルを設定したい機能に移動し、◁▷で設定を選択しⓄボタンを押します。

- 何も操作せずに約8秒間経過すると、設定が確定します。

注意

- 撮影モードによっては選択できない機能があります。

こんなときは

- さらに高度な機能やカメラのカスタマイズは、メニューを使って設定します。
☞「メニューを使う」（P.61）

手ぶれを抑えて撮影する（手ぶれ補正）

被写体が暗い場面や、高倍率撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。
シャッターボタンの半押しから手ぶれ補正が働きます。

1 ライブコントロールを表示して、△▽で手ぶれ補正を選択します。

2 ◁▷で項目を選択して㊊ボタンを押します。

静止画（S-IS）	OFF	S-I.S. Off	手ぶれを補正しません。
	S-IS1	全方向補正	手ぶれを補正します。
	S-IS2	縦ぶれ補正	カメラの縦方向の手ぶれだけを補正します。
	S-IS3	横ぶれ補正	カメラの横方向の手ぶれだけを補正します。カメラを縦に構えて流し撮りするときに適しています。
	S-IS AUTO	流し撮り補正	流し撮りの方向を検知して、最適な手ぶれ補正をします。
ムービー（M-IS）	OFF	M-I.S. Off	手ぶれを補正しません。
	ON	マルチモーション補正	全方向の手ぶれ補正に加えて、歩行中の撮影により発生するぶれも補正します。

マイクロフォーサーズ／フォーサーズ以外のレンズを使うとき – 焦点距離の設定

マイクロフォーサーズ／フォーサーズレンズ以外のレンズが装着された場合は設定された焦点距離情報を使って手ぶれ補正を行います。

- **[手ぶれ補正]**を選択中にINFOボタンを押して、◁▷で焦点距離を設定し㊊ボタンを押します。
- 8mm ～ 1000mmまでの焦点距離が設定可能です。
- レンズに記載の数値、またはその数値に一番近い値を選択してください。

注意

- 手ぶれが大きすぎるときやシャッター速度が極端に遅い場合、手ぶれを補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 三脚使用時は**[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定してください。
- 手ぶれ補正機能切り替えスイッチのあるレンズでは、レンズ側の設定が優先されます。
- レンズの手ぶれ補正機能を優先しているときは、**[S-IS AUTO]**は**[S-IS1]**で動作します。
- 手ぶれ補正が作動していると、作動音や振動を感じることがあります。

画像の仕上がりを設定する（ピクチャーモード）

画像の色調を選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。調整したパラメータは仕上がり項目ごとに記憶されます。

1 ライブコントロールを表示して[ピクチャーモード]を選択します。

2 △▽で項目を選択してⓄⓀボタンを押します。

1	i-Finish	撮影シーンに合った印象的な仕上がりになります。
2	Vivid	色鮮やかに仕上げます。
3	Natural	自然な色合いに仕上げます。
4	Flat	素材性を重視した仕上がりになります。
5	Portrait	肌色をきれいに仕上げます。
モノトーン		モノクロ調に仕上げます。
カスタム		仕上がり項目の1つを選んで各パラメータを設定し、登録します。
ART1	ポップアート	アートフィルターの設定になります。さらにそれぞれのアートエフェクト機能が使えます。
ART2	ファンタジックフォーカス	
ART3	デイドリーム	
ART4	ライトトーン	
ART5	ラフモノクローム	
ART6	トイフォト	
ART7	ジオラマ	
ART8	クロスプロセス	
ART9	ジェントルセピア	
ART10	ドラマチックトーン	
ART11	リーニュクレール	
ART12	ウォーターカラー	

3 ライブコントロール

ムービーに効果をつける

静止画の撮影モードの効果を生かしたムービー撮影が可能です。ダイヤルを🎥に設定したときに設定できます。

1 撮影モードを🎥モードにしてライブコントロール(P.52)を表示し、△▽で撮影モードの項目を選択します。

2 ◁▷で撮影モードを切り換えて㊋ボタンを押します。

P	被写体の明るさに応じて、最適な絞り値を自動的に設定します。
A	絞り値を設定することで、背景の描写に変化がつけられます。△▽で絞り値を設定します。
S	シャッター速度を設定することで、被写体の写り方に変化がつけられます。△▽でシャッター速度を設定します。設定可能なシャッター速度は1/30 ～ 1/4000秒です。
M	絞り値とシャッター速度を設定します。◁▷で絞り値を設定し、△▽でシャッター速度を設定します。設定可能なシャッター速度は、1/30～1/4000秒です。ISO感度は200～3200のマニュアル設定だけです。

注意

- ムービー撮影中は、露出補正や絞り値、シャッター速度などの設定変更はできません。
- ムービー撮影時に**[手ぶれ補正]**を使うと、画像が少し拡大されて記録されます。
- 手ぶれが大きすぎると、補正しきれないときがあります。
- カメラの内部が高温になると、保護機能が働き自動的に撮影を中止します。
- アートフィルターによっては、**[C-AF]**の動作が制限されます。
- ムービー撮影にはSDスピードクラス6以上に対応したカードのご使用をおすすめします。

アスペクト比を設定する

撮影時のアスペクト比(横×縦)を変更します。撮影目的に応じた縦横比を**[4:3]**(基準)/**[16:9]** / **[3:2]** / **[1:1]** / **[3:4]**から選びます。

1 ライブコントロールを表示して、△▽でアスペクト比設定を選択します。

2 ◁▷でアスペクト比を選択して、㊋ボタンで確定します。

注意

- JPEG形式の画像は、アスペクト比に応じてトリミングされて保存されますが、RAW画像はトリミングされずに、撮影時のアスペクト比情報が付加された状態で記録されます。
- RAW画像再生時は、アスペクト比に応じた枠が表示されます。

画質を選択する(画質モード)

静止画とムービーの画質モードを設定します。パソコンでの加工やホームページでの使用など用途に応じて選べます。

1 ライブコントロールを表示して、△▽で静止画またはムービーの画質モードを選択します。

2 ◁▷で項目を選択してⓄⓚボタンを押します。

画質モード

■ 静止画の画質モード

選択可能な画質モードはRAWとJPEG(LF/LN/MN/SN)です。RAW+JPEGの場合、RAWとJPEGの2種類の画像を同時に記録します。JPEGは画像サイズ(L/M/S)と圧縮率(SF/F/N/B)の組み合わせからできています。

画像サイズ		圧縮率				用途
サイズ名	ピクセルサイズ	SF (Super Fine)	F (Fine)	N (Normal)	B (Basic)	
L (Large)	4608×3456*	LSF	LF*	LN*	LB	プリントサイズに合わせて選択
M (Middle)	3200×2400	MSF	MF	MN*	MB	
	2560×1920*					
	1920×1440					
	1600×1200					
S (Small)	1280×960*	SSF	SF	SN*	SB	小さいプリントやホームページ用
	1024×768					
	640×480					

* 初期設定

RAW画像とは

写真にする前の未加工の状態で、撮影後に絵作りをしたり、念のために保存しておくためのデータ(拡張子「.ORF」)です。他のカメラや一般のソフトウェアでの再生・表示、プリント予約はできません。このカメラでJPEGにすることができます。☞「画像編集」(P.71)

3 ライブコントロール

■ ムービーの画質モード

画質モード	ピクセルサイズ	記録形式	用途
Full HD Fine	1920×1080	MPEG-4 AVC/ H.264*1	テレビなどでの観賞
Full HD Normal	1920×1080		
HD Fine	1280×720		
HD Normal	1280×720		
HD	1280×720	Motion JPEG*2	パソコンでの再生や編集
SD	640×480		

- 使用するカードによっては、最長時間まで記録されずに途中で撮影が終了する場合があります。

*1 1ファイルは最長29分に制限されます。
*2 1ファイルは2GBに制限されます。

フラッシュの発光量を調節する（フラッシュ発光量補正）

フラッシュの光で被写体が白く飛んでしまったり、全体的にはちょうどよい明るさなのに被写体だけが暗い写真になってしまうときにフラッシュの発光量を調整します。

1 ライブコントロールを表示して、△▽でフラッシュ補正を選択します。

2 ◁▷で項目を選択し、Ⓢボタンを押します。

注意

- 専用外部フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用外部フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。

明るさを測る方法を選ぶ(測光)

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更します。

1 ライブコントロールを表示して、△▽で測光を選択します。

2 ◁▷で項目を選択して㊉ボタンを押します。

	デジタルESP測光	画面を324分割測光し、撮影シーンや顔(**[☺顔優先]**が**[OFF]**以外のとき)などを考慮し最適な露出値を演算します。通常はこのモードをおすすめします。
	中央重点平均測光	画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。
	スポット測光	測光したいポイントにカメラを向け、狭い範囲(約2%)の明るさを測光するときに使います。測光した箇所が適正な明るさになります。
HI	**スポット測光ハイライト**	スポット測光したポイントがより明るくなります。明るいところを明るく表現します。
SH	**スポット測光シャドウ**	スポット測光したポイントがより暗くなります。暗いところを暗く表現します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- 通常は、半押しで測光を開始し、半押ししている間は露出がロックされます。

ピントの合わせ方を設定する（AF方式）

ピント合わせの方法（フォーカスモード）を選択します。
静止画撮影モードと🎥モードで別々に設定できます。

1 ライブコントロールを表示して、△▽でAF方式を選択します。

2 ◁▷で項目を選択し、Ⓞボタンを押します。

- 選択したAF方式が画面に表示されます。

S-AF（シングルAF）	シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。ピントが合うと、ピピッという音がして、画面に合焦マークとAFターゲットが点灯します。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。
C-AF （コンティニュアスAF）	シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせを繰り返します。被写体にピントが合うと、画面に合焦マークが点灯します。また、1回目と2回目の合焦時には、ピピッという音がします。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。 • フォーサーズマウント規格レンズでは、**[S-AF]**で動作します。
MF （マニュアルフォーカス）	任意の位置に手動でピントを合わせることができます。 ∞　至近 フォーカスリング
S-AF+MF （S-AFとMFの併用）	**[S-AF]**でピントを合わせた後、フォーカスリングを回してピントの微調整ができます。
C-AF+TR（追尾AF）	シャッターボタンの半押しでピントの合った被写体を、半押ししている間追尾してピント合わせの動作を繰り返します。 • 追尾被写体を見失うと、AFターゲットが赤く表示されます。シャッターボタンを離して、もう一度被写体に合わせてシャッターボタンを半押ししてください。 • フォーサーズマウント規格レンズでは、**[S-AF]**で動作します。

注意

- 明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなど、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わないことがあります。

ムービー撮影の録音の設定をする（ムービー録音）

1 ライブコントロールを表示して、△▽でムービー録音の項目を選択します。

2 ◁▷でON/OFFを切り換えて㊋ボタンを押します。

注意

- ムービー撮影中の録音では、レンズの駆動音やカメラの操作音が入ることがあります。気になるときは、**[AF方式]**を**[S-AF]**にして撮影したり、ボタンをなるべく押さないようにするなど、音の発生を抑えてください。
- **[ART7]**（ジオラマ）では、録音できません。

4 メニューの機能

メニューを使う

メニューでは、ライブコントロールなどに表示されない撮影／再生時の機能やカメラを使いやすくカスタマイズできる機能を設定します。

1	撮影前の準備と基本的な撮影設定
2	一歩進んだ撮影設定
▶	再生や編集に関する設定
✲	カメラのカスタマイズの設定（P.76）
	EVFやOLYMPUS PENPALなどアクセサリーポートメニューを使う機器の設定（P.92）*
¥	日付や言語などのカメラ設定

* 初期設定では非表示。

1 MENUボタンを押し、メニューを表示させます。

2 △▽でタブを選択し、ⓚボタンを押します。

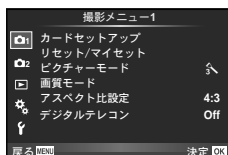
3 △▽で機能を選択しⓚボタンを押して、各設定画面に進みます。

4 △▽で設定値を選択しⓚボタンを押して、設定内容を確定します。

- 繰り返しMENUボタンを押して、メニューを終了します。

メモ

- 各機能の初期設定については、「メニュー一覧」（P.126）をご覧ください。
- 機能を選択すると、約2秒後にガイドが表示されます。INFOボタンを押すと、ガイドの表示／非表示を切り換えることができます。

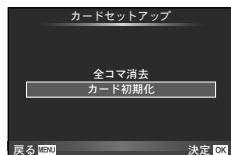
■ 撮影メニュー 1 ／撮影メニュー 2

1
- カードセットアップ（P.62）
- リセット/マイセット（P.63）
- ピクチャーモード（P.64）
- 画質モード（P.65）
- アスペクト比設定（P.55）
- デジタルテレコン（P.70）

2
- /（連写/セルフタイマー）（P.43, 65）
- 手ぶれ補正（P.53）
- ブラケット撮影（P.66）
- 多重露出（P.68）
- インターバル撮影設定（P.69）
- RCモード（P.69）

カードを初期化する（カードセットアップ）

新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。
すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。☞「カードについて」（P.113）

1 1撮影メニュー 1で、[カードセットアップ]を選択します。

2 [カード初期化]を選択します。

3 [実行]を選択して、Ⓞボタンを押します。
- 初期化が実行されます。

カメラを初期値にセットする（リセット/マイセット）

カメラの設定を登録済みの設定値に簡単に変更できます。

リセット操作

工場出荷時の設定に戻します。

1 撮影メニュー 1で、[リセット/マイセット]を選択します。

2 [リセット]を選択し、Ⓞボタンを押します。

- [リセット]を選択してから▷を押すと、リセットの種類を選べます。日付や言語など一部を除いた設定値をリセットする場合は、[フル]を選びⓄボタンを押します。☞「メニュー一覧」（P.126）

3 [実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。

マイセットを登録する

撮影モード以外の現在のカメラの設定を登録しておけます。**P**/**A**/**S**/**M**モードで登録された設定を呼び出すことができます。

1 登録したい状態にカメラを設定します。

2 撮影メニュー 1で、[リセット/マイセット]を選択します。

3 登録先（[マイセット1] ～ [マイセット4]）を選択し、▷を押します。

- すでに登録している場合、[マイセット1] ～ [マイセット4]に[**登録**]と表示されます。もう一度[**登録**]を選択すると、登録内容が上書きされます。
- 登録を解除する場合は[クリア]を選択します。

4 [登録]を選択し、Ⓞボタンを押します。

- マイセットに登録できる機能 ☞「メニュー一覧」（P.126）

マイセット操作

カメラの設定を登録されたマイセットの設定にします。

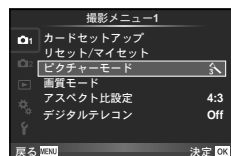
1 撮影メニュー 1で、[リセット/マイセット]を選択します。

2 [マイセット1] ～ [マイセット4]のいずれかを選択した状態でⓄボタンを押します。

3 [実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。

画像の仕上がりを設定する（ピクチャーモード）

[ライブコントロール]の**[ピクチャーモード]**の設定に、個別にコントラストやシャープネスなどの微調整をしておくことができます。調整したパラメータは仕上がり項目ごとに記憶されます。

1 撮影メニュー1で、**[ピクチャーモード]**を選択します。

2 △▽で項目を選択してⓄⓀボタンを押します。

3 各項目でさらに▷を押すと、各項目のパラメータを調整できます。

項目		内容	1	2〜5	M	C
コントラスト		明暗の差	○	○	○	○
シャープネス		鮮鋭さ	○	○	○	○
彩度		色の鮮やかさ	○	○	×	○
階調		画像の階調を調整します。	○	○	○	○
	オート	画像を細かい領域にわけて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗さの大きい画像に有効です。				
	標準	通常は**[標準]**に設定してください。				
	ハイキー	明るい被写体に適した階調にします。				
	ローキー	暗い被写体に適した階調にします。				
効果 （i-Finishのみ）		効果のかかり方の強弱を設定します。	○	×	×	○
フィルター効果 （モノトーンのみ）		フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。	×	×	○	○
	N:無し	通常の白黒画像になります。				
	Ye:黄	自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。				
	Or:オレンジ	青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。				
	R:赤	青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。				
	G:緑	赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。				

		ART1	ART2～ART5	M	C
調色 （モノトーンのみ）	白黒画像に色味を付けます。	×	×	○	○
N:無し	通常の白黒画像になります。				
S:セピア	セピア				
B:青	青味				
P:紫	紫味				
G:緑	緑味				

注意

- **[標準]**以外の階調ではコントラスト調整は反映されません。

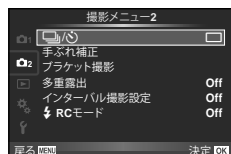
画質を選択する（画質モード）

画質モードを設定します。静止画とムービーそれぞれの画質モードを設定しておくことができます。**[ライブコントロール]**の**[画質モード]**と同じです。

- JPEG画像の画像サイズと圧縮比の組み合わせ、[M]、[S]のピクセルサイズは変更することができます。**[画質設定]**、**[ピクセルサイズ]** ☞「カスタムメニューを使う」（P.76）

セルフタイマーを設定する（□/ⓢ）

セルフタイマーのカスタム設定ができます。

1 撮影メニュー2で、[□/ⓢ]を選択します。

2 [ⓢC]（カスタム）を選択して▷ボタンを押します。

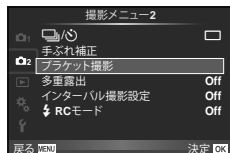
3 △▽で項目を選択して▷を押します。

- △▽で設定を選択してⓄⓚボタンを押します。

コマ数	撮影する枚数を設定します。
セルフタイマー時間	撮影するまでの時間を設定します。
撮影間隔	2コマ目以降を撮影する間隔を設定します。

条件を少しずつ変化させて撮影する(ブラケット撮影)

1コマごと、または同時に異なる設定の撮影を自動的に行う方法をブラケット撮影といいます。

1 撮影メニュー 2で、[ブラケット撮影]を選択して㊍ボタンを押します。

2 ブラケット撮影の種類を選択します。

- ブラケット撮影を設定すると、画面にBKTまたはHDRが表示されます。

AE BKT（AEブラケット撮影）

1コマごとに露出を変えて撮影するAEブラケット撮影の設定を行います。補正量を0.3EV、0.7EV、1.0EVから選択します。単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、連写モードでは、シャッターボタンを全押し続けている間に、適正露出、–補正、+補正の順番で撮影します。撮影枚数：2枚／ 3枚／ 5枚／ 7枚

- ブラケット撮影中はBKTが緑色で表示されます。
- **P**モードでは、絞り値とシャッター速度、**A**および**M**モードではシャッター速度、**S**モードでは絞り値を制御して補正を行います。
- 露出補正を行っている場合、すでに補正されている値を中心としたAEブラケット撮影が行われます。
- **[露出ステップ]**を変更すると、補正量も変化します。☞「カスタムメニューを使う」（P.76）

WB BKT（WBブラケット撮影）

1回の撮影で、1つの補正方向に対して色合い(ホワイトバランス)を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カメラの設定で撮影された画像、その画像から色合いを変更した画像の順番で記録されます。**P**、**A**、**S**、**M**モードでのみ使用できます。

- 補正する方向A–B（赤–青)、およびG–M（緑–赤紫)のそれぞれのステップを2ステップ、4ステップ、6ステップから選択します。
- ホワイトバランスの補正を行っている場合、すでに補正されている値を中心としたWBブラケット撮影が行われます。
- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと撮影できません。

FL BKT（FLブラケット撮影）

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影するフラッシュブラケット撮影の設定を行います。単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、連写モードでは、シャッターボタンを全押し続けている間に、適正発光量、–発光量、+発光量の順番で3コマを撮影します。

- ブラケット撮影中はBKTが緑色で表示されます。
- **[露出ステップ]**を変更すると、補正量も変化します。
  ☞「カスタムメニューを使う」（P.76）

ISO BKT（ISOブラケット撮影）

撮影時のシャッター速度と絞り値を固定したまま、1コマごとにISO感度を変えて撮影するISOブラケット撮影の設定を行います。補正量を0.3EV、0.7EV、1.0EVから選択します。1回の撮影で、ISO感度を設定したISO感度（オート設定時は適正ISO）–補正、+補正の順番で3コマを撮影します。

- **[ISO感度ステップ]**を変更しても、補正量は変化しません。
  ☞「カスタムメニューを使う」（P.76）
- **[ISOオート設定]**で設定した上限値とは関係なくブラケット撮影が行われます。☞「カスタムメニューを使う」（P.76）

ART BKT（アートフィルターブラケット撮影）

1回の撮影でアートフィルターを施した複数の画像を残せます。使用するピクチャーモードごとにOn ／ Offを設定しておきます。

- 撮影後の画像の記録に時間がかかる場合があります。
- WB BKT、ISO BKTとの併用はできません。

ART BKT
ポップアート
ファンタジックフ
デイドリーム
ライトトーン
ラフモノクローム
トイフォト
ジオラマ
Off
On
戻る MENU
決定 OK

HDR BKT（HDRブラケット撮影）

HDR合成に適した露出の異なる複数の画像を撮影します。

- 連写モードで撮影されます。撮影途中でシャッターボタンをはなしても、設定枚数の撮影を続けます。
- 他のブラケット撮影と併用はできません。

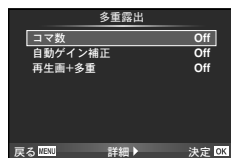
複数の画像を重ね合わせて撮影する（多重露出撮影）

複数の画像を重ねて1つの画像に合成し、設定されている画質モードで保存します。

1 撮影メニュー 2で、[多重露出]を選択します。

2 多重露出撮影の設定を行います。

コマ数	[2コマ]に設定します。
自動ゲイン補正	[On]に設定すると、各コマの明るさを1/2にしてから合成します。[Off]に設定すると、各コマの明るさのままで合成します。
再生画+多重	[On]に設定すると、選んだRAW形式の画像に重ねて多重露出撮影ができます。撮影回数は1回です。撮影した画像は別の画像として保存されます。

- 多重露出を設定するとモニターにが表示されます。

3 撮影します。

- 撮影を始めるとが緑で表示されます。
- ボタンを押すと、直前に撮影した画像が取り消されます。
- 1コマ目を撮影するとモニターに途中の合成画像が半透過で表示されるので、合成位置を確認しながら撮影できます。

こんなときは

- 3コマ以上撮影画像を合成したい：**[画質モード]**をRAWの設定で撮影し、**[再生画+多重]**を使って繰り返し撮影します。
- RAW画像を合成したい：☞ **[編集]**（P.71）

注意

- 多重露出を設定すると、スリープモードには入りません。
- 他のカメラで撮影された画像を使った合成はできません。
- **[再生画+多重]**を**[On]**に設定し、RAW形式の画像を選択するときに表示される画像は、撮影時の設定で現像されたものです。
- 撮影に関する設定は、多重露出撮影を解除してから行ってください。一部設定できない機能があります。
- 次の場合は1枚目以降の多重露出が自動的に解除されます。
  電源を切る／ ボタンを押す／ MENUボタンを押す／ **P**/**A**/**S**/**M**以外の撮影モードにする／電池残量がなくなる／各コネクタへのケーブルの挿入
- **[再生画+多重]**でRAW形式の画像を選択するとき、RAW+JPEGで記録した画像はJPEG画像が表示されます。
- 多重露出撮影とブラケット撮影を併用する場合は、多重露出撮影の動作が優先されます。合成した画像を保存中、ブラケット撮影は初期状態にリセットされます。

一定時間ごとに自動的に撮影する（インターバル撮影）

設定した間隔で自動的に撮影できます。また撮影した一連のコマをひとつのムービーとして記録することもできます。**P**/**A**/**S**/**M**モードでのみ設定できます。

1 撮影メニュー 2の[**インターバル撮影設定**]で以下の設定をします。

コマ数	撮影するコマ数を設定します。
撮影開始待ち時間	撮影開始までの待ち時間を設定します。
撮影間隔	撮影開始後の撮影の間隔を設定します。
タイムラプス動画	一連のコマの記録形式を設定します。 [**Off**]：それぞれのコマを静止画として記録します。 [**On**]：静止画で記録するのと同時に、一連のコマでひとつのムービーを生成して記録します。

- ムービーの画質は[**M-JPEG HD**]、フレームレートは10fpsです。

2 撮影します。

- AF後、ピントが合わなくても撮影されます。ピント位置を固定したいときはMFで撮影してください。
- [**撮影確認**]は0.5秒で動作します。
- 撮影開始待ち時間、撮影間隔の設定を1分30秒以上にすると、1分でモニターを消灯してカメラの電源が切れます。撮影10秒前に自動的に復帰します。またモニター消灯中は、シャッターボタンを押しても復帰します。

注意

- AF方式が[C-AF][C-AF+TR]では、[S-AF]に設定されます。
- インターバル撮影中は、タッチ操作は受け付けません。
- ブラケット撮影、多重露出撮影とは併用できません。
- 撮影間隔より、フラッシュの充電時間が長いときは、フラッシュは発光しません。
- [**BULB**]、[**TIME**]撮影ではシャッター速度は、60秒に固定されます。
- インターバル撮影中は、カメラの電源が自動的に切れても次の撮影前に復帰します。
- 撮影した静止画が正しく記録されてない場合は、タイムラプス動画は生成されません。
- カード残量が不足した場合、タイムラプス動画は記録されません。
- 撮影開始後に次の操作をするとインターバル撮影は、終了します。
  モードダイヤル／ MENUボタン／ ▶ボタン／レンズ取り外しボタン／ USBケーブルを接続
- 電源を切ると、インターバル撮影を終了します。
- 電池残量が少なくなると途中で撮影を終了します。十分に充電した電池をお使いください。

ワイヤレスRCフラッシュ撮影

内蔵フラッシュとRCモード機能付き専用フラッシュを使ってワイヤレスフラッシュ撮影ができます。☞「ワイヤレスRCフラッシュ撮影」（P.121）

被写体を拡大して記録する（デジタルテレコン）

被写体をズームの倍率以上の大きさに拡大して記録します。中央部を切り出して記録します。被写体が約2倍の大きさになります。

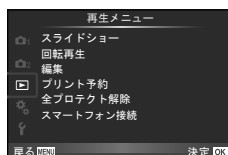
1 撮影メニュー 1で[デジタルテレコン]を[**On**]にします。

2 モニターの表示が2倍に拡大されます。

- 撮影するとモニターに表示された状態で記録されます。

注意

- SCN（3D、、、、）、、多重露出では使用できません。
- モードでは、**[動画エフェクト]**が**[On]**のときは使用できません。
- RAW画像では表示した部分を示す枠が表示されます。

■ 再生メニュー

スライドショー（P.51）
回転再生（P.71）
編集（P.71）
プリント予約（P.96）
全プロテクト解除（P.73）
スマートフォン接続（P.73）

画像を回転して再生する（回転再生）

設定が**[On]**のとき、縦位置で撮影した画像が自動的に回転して再生されます。

画像編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。

1 ▶再生メニューで**[編集]**を選び⊛ボタンを押します。

2 △▽で**[画像選択]**を選び⊛ボタンを押します。

3 ◁▷で編集する画像を選択し、⊛ボタンを押します。

- RAW画像の場合は**[RAW編集]**、JPEG画像の場合は**[JPEG編集]**が表示されます。RAW+JPEGで記録した画像は、メニューに両方が表示されますので、編集したい方のメニューを選びます。

4 **[RAW編集]**または**[JPEG編集]**を選択して⊛ボタンを押します。

RAW編集	設定に合わせて編集したJPEG画像を作ります。	
	[現設定]	現在のカメラの設定に応じた処理がされます。あらかじめカメラの設定をしておきます。
	[詳細設定1]	画面上で設定を変更しながら編集します。使用した設定を記録しておけます。
	[詳細設定2]	
	ART BKT	[On]設定のアートフィルター設定で編集されます。

4 メニューの機能（再生メニュー）

JPEG編集	次の編集が可能です。 **[階調オート]**：逆光時に暗く写った被写体を明るくします。 **[赤目補正]**：フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。 **[トリミング]**：ダイヤルでトリミングサイズ、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。 **[アスペクト]**：アスペクト比が4:3（基準）の画像のアスペクト比を**[3:2]**／**[16:9]**／**[1:1]**／**[3:4]**に変更します。アスペクト比変更後、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。 **[モノクロ作成]**：白黒に変換します。 **[セピア作成]**：セピア色に変換します。 **[鮮やかさ調整]**：画像の色をより鮮やかにします。画面で確認しながら鮮やかさを調整します。 **[リサイズ]**：画像サイズを1280 × 960、640 × 480、または320 × 240に変換します。アスペクト比が4:3（基準）以外の画像は、近い大きさの画像サイズに変換されます。 **[eポートレート]**：なめらかな肌に補正します。 顔が検出できないなど、画像によっては補正できない場合があります。

5 設定を完了したら㊍ボタンを押します。

- 画像に設定が反映されます。

6 **[実行]**を選択して㊍ボタンを押します。

- 編集された画像がカードに記録されます。

注意

- 3D画像やムービーの編集はできません。
- 画像によっては赤目補正できないことがあります。
- 次の場合はJPEG編集できません。
  パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。
- **[トリミング]**／**[アスペクト]**は、アスペクト比が4：3（基準）の画像のみ編集できます。
- **[ピクチャーモード]**を**[ART]**に設定すると**[カラー設定]**は、**[sRGB]**に固定されます。

画像合成

撮影したRAW画像を最大3コマまで重ねて合成し、別の画像として保存します。
保存時の画質モードで保存されます。（**[RAW]**の場合は**[LN+RAW]**で保存されます。）

1 ▶再生メニューで[編集]を選び㊉ボタンを押します。

2 △▽で[画像合成]を選び㊉ボタンを押します。

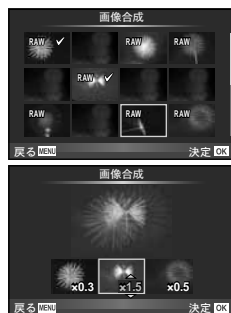
3 合成するコマ数を選択して㊉ボタンを押します。

4 △▽◁▷で合成するRAW画像を選択します。

- 手順3で選択したコマ数を選択すると、画像合成画面が表示されます。

5 合成する各画像のゲインを選択します。

- ◁▷で画像を選択し、△▽で数値を変更します。
- ゲインは0.1 ～ 2.0まで選択できます。表示画像を見ながらゲインを調節してください。

6 ㊉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。**[実行]**を選択し、㊉ボタンを押します。

こんなときは

- 画像をRAW形式で保存し、繰り返し**[画像合成]**を行うと、4コマ以上の画像合成が可能です。

音声録音

静止画に音声を録音します（最長30秒）。
画像再生時の**[録音]**と同じ機能です。（P.50）

全プロテクト解除

プロテクトされている画像を一度に解除できます。

1 ▶再生メニューで**[全プロテクト解除]**を選択します。

2 **[実行]**を選択し、㊉ボタンを押します。

スマートフォン接続機能を使う（スマートフォン接続）

本機の無線LAN機能を使ってスマートフォンと接続して画像の閲覧や転送ができます。☞「カメラの無線LAN機能を使う」（P.103）

■ セットアップメニュー

セットアップメニューでは、カメラの基本的な機能を設定します。

メニュー項目	説明	☞
日時設定	日時を設定します。	14
（言語切り換え）	モニターのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語以外の言語に設定できます。	—
モニタ調整	モニターの明るさと色温度を調整します。色温度の調整は再生時のモニター表示に適用されます。◁▷で（色温度）と（明るさ）を切り換え、△▽で設定値を選びます。 INFOボタンを押すたびにモニター表示の彩度が**[Natural]**と**[Vivid]**で切り換わります。	—
撮影確認	撮影後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。 **[0.3秒]** ～ **[20秒]**：画像を表示する時間を指定します。 **[Off]**：記録中の画像は表示されません。 **[Auto▶]**：記録中の画像を表示し、そのまま再生モードに切り換わります。画像を確認した後、消去したいときに便利です。	—
Wi-Fi設定	本機の無線機能を使って、無線LAN接続が可能なスマートフォンと接続するための設定をします。	75
/メニュー表示	カスタムメニューやアクセサリーポートメニューを表示するかどうかを設定します。	92
バージョン	カメラや接続しているアクセサリーのファームウェアバージョンを表示します。お問い合わせいただくときやソフトウェアをダウンロードする場合に確認できます。	—

無線LAN接続のための設定をする（Wi-Fi設定）

本機の無線LAN機能（P.103）を使うために、接続の際に使うパスワードなどの設定をしておきます。接続の際にいつも同じ設定を使う**［プライベート接続］**とその場限りの接続のための**［ワンタイム接続］**があります。

パスワードの選択方法を設定する

1 セットアップメニューで**［Wi-Fi設定］**を選択してⓄⓚボタンを押します。

2 **［Wi-Fi接続設定］**を選択して▷ボタンを押します。

3 無線LAN接続の方法を選択してⓄⓚボタンを押します。

- **［プライベート接続］**：あらかじめ設定されたパスワードを使って接続します。
- **［ワンタイム接続］**：毎回異なったパスワードを使って接続します。
- **［毎回確認］**：毎回どちらの方法で接続するかを選択します。

プライベート接続のパスワードを変更する

［プライベート接続］で使うパスワードを変更します。

1 セットアップメニューで**［Wi-Fi設定］**を選択してⓄⓚボタンを押します。

2 **［プライベート接続パスワード設定］**を選択して▷ボタンを押します。

3 操作ガイドに従って入力して◉ボタンを押します。

- 新しいパスワードに設定されます。

画像のシェアを解除する

画像に設定されている無線LAN接続時の公開予約（P.48）を解除します。

1 セットアップメニューで**［Wi-Fi設定］**を選択してⓄⓚボタンを押します。

2 **［全シェア予約解除］**を選択して▷ボタンを押します。

3 **［実行］**を選択してⓄⓚボタンを押します。

無線LAN設定の内容を初期化する

［Wi-Fi接続設定］の設定内容を初期化します。

1 セットアップメニューで**［Wi-Fi設定］**を選択してⓄⓚボタンを押します。

2 **［Wi-Fi設定リセット］**を選択して▷ボタンを押します。

3 **［実行］**を選択してⓄⓚボタンを押します。

カスタムメニューを使う

カスタムメニューを使って、機能の拡張やカメラのカスタマイズができます。

カスタムメニュー

AF/MF

MENU ➔ ➔

メニュー項目	説明	☞
AF方式	AFの方式を選択できます。ライブコントロールの設定と同じです。静止画撮影モードとモードで別々に設定できます。	59
フルタイムAF	**[On]**にするとシャッターボタンを半押ししないときも常時ピント合わせの動作をします。	—
AEL/AFLモード	AFやAEロックの機能を設定します。	84
レンズリセット	**[On]**に設定すると、カメラの電源をオフにしたときに、レンズのフォーカス位置をリセットします。 電動ズームレンズはズームの位置もリセットします。	—
BULB/TIME中MF	マニュアルフォーカス（MF）で露光中は、ピントが固定されますが、**[On]**に設定すると、フォーカスリングを回してピントを変えることができます。	—
フォーカスリング	フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り換えることができます。	—
MFアシスト	**[On]**に設定すると、マニュアルフォーカス時にフォーカスリングを回したとき、自動的に拡大表示したり、ピーキング表示することができます。	84
[···] Home登録	ホームポジションとして使うAFターゲットの位置を登録します。ホームポジションが登録中の場合、AFターゲット選択の画面でHPが表示されます。	—

AF/MF

MENU ➔ ✲ ➔ A

メニュー項目	説明	☞
AFイルミネータ	[Off]にするとAF補助光を発光しません。	—
☺顔優先	顔優先AFの方式を選択できます。ライブコントロールの設定と同じです。	41

ボタン/ダイヤル/レバー

MENU ➔ ✲ ➔ B

メニュー項目	説明	☞
ボタン機能	各ボタンに機能の登録ができます。 [Fnボタン機能]、[Qボタン機能]、[◉ボタン機能]、[▷ボタン機能]、[▽ボタン機能]、[ボタン機能]、[L-Fnボタン機能]	85
ダイヤル機能	メインダイヤルとサブダイヤルの機能を変更できます。	—
ダイヤル方向	シャッター速度や絞り値の増減方向を切り換えます。	—
モードダイヤル機能	モードダイヤルで設定する撮影モードをカスタマイズできます。登録したマイセットをあてることができます。	—
レバー機能	レバーの位置によって、ダイヤルやボタンの機能を切り換えることができます。	86

レリーズ/連写

MENU ➔ ✲ ➔ C

メニュー項目	説明	☞
レリーズ優先S	[On]に設定すると、ピントが合わなくてもシャッターを切ることができるようになります。S-AF（P.59）、C-AF（P.59）それぞれのAF方式で個別に設定できます。	—
レリーズ優先C		
□L設定	連写の速度を[□L]と[□H]それぞれに設定できます。数値は最大値の目安です。	43
□H設定		
□+手ぶれ補正Off連動	[Off]に設定すると、連写中は手ぶれ補正が有効になります。	—
半押し中手ぶれ補正	[On]にすると、シャッターボタンの半押しと同時に手ぶれ補正機能が働きます。	—
レンズ側手ぶれ補正優先	[On]にすると手ぶれ補正機能付きレンズを使用するときにレンズ側の機能を優先して働かせます。	—
レリーズタイムラグ	[ショート]に設定すると、シャッターボタン全押しから撮影されるまでのタイムラグを短くできます。*	—

* 電池寿命が短くなります。また、カメラ使用中に強い衝撃を与えないでください。モニターに被写体が表示されなくなります。そのときは電源を入れなおしてください。

表示/音/接続

<table>
<tr><th>メニュー項目</th><th>説明</th><th>☞</th></tr>
<tr><td>HDMI</td><td>[HDMI出力]：HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号形式を選択します。
[HDMIコントロール]：[On]にするとHDMIコントロール対応テレビのリモコン操作を許可します。</td><td>87</td></tr>
<tr><td>ビデオ出力</td><td>各国のテレビ映像信号に合わせて、[NTSC]または[PAL]を選択します。日本は[NTSC]です。</td><td>87</td></tr>
<tr><td>Control表示</td><td>操作画面の表示／非表示を、撮影モードごとに設定できます。
<table>
<tr><th rowspan="2">操作画面</th><th colspan="4">撮影モード</th></tr>
<tr><th>P/A/S/M</th><th>iAUTO</th><th>ART</th><th>SCN</th></tr>
<tr><td>LVコントロール(P.52)</td><td>On/Off</td><td>On/Off</td><td>On/Off</td><td>On/Off</td></tr>
<tr><td>LVスーパーコンパネ(P.89)</td><td>On/Off</td><td>On/Off</td><td>On/Off</td><td>On/Off</td></tr>
<tr><td>ライブガイド(P.20)</td><td>–</td><td>On/Off</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ARTメニュー</td><td>–</td><td>–</td><td>On/Off</td><td>–</td></tr>
<tr><td>SCNメニュー</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td><td>On/Off</td></tr>
</table></td><td>88</td></tr>
<tr><td>/Info表示設定</td><td>INFOボタンを押したときに表示する情報画面の表示／非表示を設定します。
[▶Info]：再生情報画面の設定
[LV-Info]：撮影情報画面の設定
[表示]：インデックス表示／カレンダー表示の設定</td><td>90、91</td></tr>
<tr><td>表示罫線選択</td><td>[方眼]、[黄金分割]、[目盛]、[対角線]、[動画罫線]から選択し、撮影画面に罫線を表示できます。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>ピクチャーモード表示</td><td>ピクチャーモードの設定をするとき、選択したピクチャーモードだけを表示します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>ヒストグラム警告設定</td><td>[ハイライト表示]：ハイライト表示の下限値を設定します。
[シャドウ表示]：シャドウ表示の上限値を設定します。</td><td>90</td></tr>
<tr><td>モードガイド表示</td><td>[Off]にすると、モードダイヤルを切り換えたときに表示されるモードについてのガイドを表示しません。</td><td>15</td></tr>
<tr><td>LVブースト</td><td>[On]にすると、モニターに露出補正などの撮影条件を反映せず、画像が見えることを優先して表示します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>フレームレート</td><td>[高速]にすると表示遅れが軽減されます。ただし画像が粗く見える場合があります。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>アートLVモード</td><td>[mode1]：常にフィルター効果を反映して表示します。
[mode2]：シャッターボタンを半押し中、フィルター効果の反映をしないでモニター表示を行います。スムーズな表示をします。</td><td>—</td></tr>
</table>

表示/音/接続

MENU ➔ ✿ ➔ D

メニュー項目	説明	☞
フリッカー低減	ライブビュー表示の蛍光灯などによるフリッカーの影響を低減します。**[オート]**で低減されないときは、地域の商用電源周波数に合わせて**[50Hz]**［**60Hz]**に設定します。	—
LV拡大モード	**[mode1]**：シャッターボタンを半押しすると拡大表示を中止します。 **[mode2]**：シャッターボタンを半押ししても拡大表示を続けます。	42
ピーキング表示	輪郭強調の色を白または黒に替えることができます。	—
バックライト時間	設定した時間、カメラを操作しないと、バックライトを減光して電池の消費を抑えます。**[Hold]**にすると減光しません。	—
スリープ時間	設定した時間、カメラを操作しないと、省電力モード(スリープモード)になります。シャッターボタンの半押しで解除されます。	—
自動電源Off	設定時間でカメラの電源をオフにします。	—
電子音	**[Off]**に設定すると、シャッターボタンを押してピントが合ったときのピピッという音を鳴らさないようにできます。	—
USB接続モード	カメラをパソコンやプリンタに接続するときの方式を選択します。**[オート]**では機器に接続するたびにメニューが表示されます。	—

露出/測光/ISO

MENU ➔ ✿ ➔ E

メニュー項目	説明	☞
露出ステップ	シャッター速度、絞り値、露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを切り換えます。	—
長秒時ノイズ低減	長時間露光時に発生するノイズを低減します。 **[オート]**：長秒時のみノイズ低減処理を行います。 **[On]**：常にノイズ低減処理を行います。 **[Off]**：ノイズ低減処理を行いません。 • 処理のために約2倍の撮影時間がかかります。 • 連写設定時は自動的に**[Off]**になります。 • 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。	28
高感度ノイズ低減	高感度撮影時のノイズ低減レベルを選択できます。	—
ISO感度	ISO感度を設定します。	45
ISO感度ステップ	ISO感度の設定ステップを設定します。	—
ISOオート設定	ISO感度を**[オート]**に設定したときの上限値と基準値を設定します。 **[上限値]**：ISO感度の上限を設定します。 **[基準値]**：通常使用するISO感度を設定します。	—

露出/測光/ISO

MENU ➜ ➜

メニュー項目	説明	☞
ISOオート有効	ISO感度の**[オート]**の動作を設定します。 **[P/A/S]**：**M**モード以外の撮影モードで有効になります。**M**モードでは、ISO200に固定されます。 **[All]**：すべての撮影モードで有効になります。	—
測光	撮影シーンに応じて測光方式を変更できます。	58
AEL測光モード	AEロック（P.84）するときの測光方式を設定します。 **[オート]**：通常の測光モードの設定にしたがいます。	—
BULB/TIME リミッター	バルブ撮影、タイム撮影の最長時間を設定します。	—
BULB/TIME輝度設定	**[BULB]**、**[TIME]**設定時のモニターの明るさを設定します。外付け電子ビューファインダーの明るさも設定されます。	—
ライブBULB設定	撮影中の画面表示の間隔を設定します。表示回数には制限があります。また、ISO感度が高いほど表示回数が少なくなります。**[Off]**にすると表示しません。モニターにタッチするかシャッターボタンを半押しすると表示を更新できます。	—
ライブTIME設定		—
低振動モード[♦]	シャッターボタンを全押しした後、シャッターが切れるまでの時間を設定します。カメラぶれを抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影などの場面で使います。低振動モードは連写（P.43）やセルフタイマー撮影（P.43）にも有効です。	—

フラッシュ

MENU ➜ ➜

メニュー項目	説明	☞
同調速度	フラッシュ発光時のシャッター速度を設定できます。	91
低速制限	フラッシュ発光時の低速側のシャッター速度の制限値を設定できます。	91
+連動	**[On]**に設定すると、露出補正量に加算してフラッシュ補正が行われます。	37, 57

画質/色/WB

MENU ➜ ✻ ➜ G

メニュー項目	説明	☞
画質設定	JPEGの画質モードを変更できます。3種類の画像サイズと4種類の圧縮率の組み合わせから選択します。 1） ◁▷で[◀:-1]～[◀:-4]の画像サイズと圧縮率を選択し、△▽で値を変更します。 2） ⓞボタンを押すと設定されます。 画質設定 ◀:1 ◀:2 ◀:3 ◀:4 L SF M F S N S SF ピクセルサイズ ： Large 戻る MENU 決定 OK 画像サイズ 圧縮率	56
ピクセルサイズ	画像サイズ[M]、[S]のピクセルサイズを設定できます。 1） ✻カスタムメニューのGタブで[ピクセルサイズ]を選択します。 2） [Middle]または[Small]を選択して、▷を押します。 3） ピクセルサイズを変更して、ⓞボタンを押すと設定が確定します。 ピクセルサイズ Middle 2560×1920 Small 1280×960 戻る MENU 詳細 ▶ 決定 OK	56
シェーディング補正	[On]に設定すると、レンズの特性による画面周辺の暗さを補正し、明るくします。 • テレコンバーターやエクステンションチューブを装着しているときは補正されません。 • 高いISO感度では、画面周辺のノイズが目立つ場合があります。	—
WBモード	ホワイトバランスの設定をします。ライブコントロールの設定と同じです。それぞれの設定を微調整しておくこともできます。	44
全WBモード補正	[All Set]：[CWB]以外のすべてのWBモードで同じ補正値を適用します。 [All Clear]：[CWB]以外のすべてのホワイトバランス補正値を0にします。	—
WBオート 電球色残し	[Off]にすると電球色の色味を残しません。	—
⚡+WB連動	フラッシュ発光時のホワイトバランスの設定を選択できます。	—
カラー設定	撮影した画像をモニターやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。	—

記録/消去

メニュー項目	説明	☞
ワンプッシュ消去	[On]に設定すると、再生画面で🗑ボタンを押したとき、すぐに画像が消去されます。	—
RAW+JPEG消去	[1コマ消去]（P.19）を行う場合に、RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定します。 [JPEG]：JPEGのみ消去します。 [RAW]：RAWのみ消去します。 [RAW+JPEG]：RAWとJPEGの両方を消去します。 • [全コマ消去]（P.62）や選択コマ消去の場合は、常にRAWとJPEGの両方が消去されます。	56
ファイルネーム	[オート]：カードを入れ換えても、ファイル番号は通し番号で付けられます。カード内に重複するファイル番号がある場合は、最も大きなファイル番号に続いた番号が付けられます。 [リセット]：新しいカードを入れると、フォルダ番号は100, ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、最も大きなファイル番号に続いた番号が付けられます。	—
ファイルネーム編集	画像につくファイル名を変更できます。以下の部分が編集できます。 sRGB：Pmdd0000.jpg ―― Pmdd AdobeRGB：_mdd0000.jpg ―― mdd	—
実行優先設定	カーソルの初期位置を[実行]または[中止]にするかを選択できます。	—
dpi設定	プリントするときの解像度を設定します。	—
著作権情報*	最大63文字の撮影者／著作権者の名称を画像に付加します。 [著作権情報記録]：[On]を選択すると撮影者／著作権者の名称をExif情報に付加します。 [撮影者入力]：撮影者の名称を入力します。 [著作権者入力]：著作権者の名称を入力します。 1） ①の中から文字を選択し、Ⓞボタンを押します。選択した文字は②に表示されます。 2） 手順1を繰り返し、すべてを入力したら[END]を選択しⓄボタンを押します。 • 文字を消去するには、INFOボタンを押し、カーソルを②に移動してから、消去したい文字を選んで🗑ボタンを押します。	—

4

メニューの機能（カスタムメニュー）

* [著作権情報]の使用によって生じたトラブルや損害などについては、当社は一切の責任を持ちません。お客様の責任で使用してください。

動画

MENU ➔ ⚙ ➔

メニュー項目	説明	☞
モード	ムービー撮影時の撮影モードを設定しておくことができます。ライブコントロールで行う設定と同じです。	55
ムービー録音	[Off]にすると、ムービー撮影中に音声を録音しないように設定できます。ライブコントロールで行う設定と同じです。	60
動画エフェクト	[On]にすると、モードでムービー効果を使用できます。	29
風切り音低減	録音時の風による雑音を低減します。	—
録音レベル調整	被写体との距離に応じてマイクの感度を設定します。	—

その他

MENU ➔ ⚙ ➔

メニュー項目	説明	☞
ピクセルマッピング	撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。	111
露出基準調整	適正露出の基準値を測光方式ごとに調整できます。 • 調整した方向の露出補正範囲が狭くなります。 • 調整量は撮影画面では確認できません。通常の露出補正を目的とする場合は、露出補正(P.37)を行ってください。	—
警告レベル	警告を表示する電池残量レベルを調整できます。	13
水準器調整	水準器の角度のずれを調整できます。 **[リセット]**:出荷時の調整値に戻ります。 **[キャリブレーション]**:現在のカメラの状態位置を0点とします。	—
タッチパネル設定	モニターに触れてカメラを操作することができます。[Off]にするとタッチパネルの操作を禁止します。	—
Eye-Fi 設定*	Eye-Fiカードを使用するときに通信を行うかどうかを設定します。	—

* Eye-Fiカードは使用する国や地域の法律にしたがってお使いください。飛行機の中など使用を禁止される場所では、カードをカメラから取り出すか、[Eye-Fi 設定]を[Off]にしてください。Eye-Fiカードのエンドレスモードには対応しておりません。

AEL/AFLモード

MENU ➔ ✲ ➔ 🅰 ➔ [AEL/AFLモード]

AEL/AFL機能を割り当てたボタンを押してオートフォーカスや測光を行うことができます。それぞれのフォーカスモードごとにmodeを選択します。

AEL/AFL機能分担一覧

モード		シャッターボタンの役割				ボタンの役割	
		半押しのとき		全押しのとき		押している間	
		ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
S-AF	mode1	S-AF動作	固定	–	–	–	固定
	mode2	S-AF動作	–	–	固定	–	固定
	mode3	–	固定	–	–	S-AF動作	–
C-AF	mode1	C-AF開始	固定	固定	–	–	固定
	mode2	C-AF開始	–	固定	固定	–	固定
	mode3	–	固定	固定	–	C-AF開始	–
	mode4	–	–	固定	固定	C-AF開始	–
MF	mode1	–	固定	–	–	–	固定
	mode2	–	–	–	固定	–	固定
	mode3	–	固定	–	–	S-AF動作	–

MFアシスト

MFでのピント合わせを補助する機能です。フォーカスリングを回すと、被写体の輪郭を強調したり画面の一部を拡大したりして表示します。フォーカスリングの操作をやめると、もとの表示に戻ります。

拡大	画面の一部を拡大して表示します。拡大する部分はあらかじめAFターゲットで決めることができます。☞ **[AFターゲット選択]**（P.40）
ピーキング	画面内の輪郭のはっきりした箇所を強調表示します。強調表示の色は選択することができます。☞ **[ピーキング表示]**（P.79）

メモ

- **[拡大]**や**[ピーキング]**は、ボタン操作で表示することもできます。ボタンを押すたびに表示を切り換えることができます。あらかじめ**[ボタン機能]**（P.85）でいずれかのボタンに機能を割り当てておきます。

注意

- ピーキング表示は、細かい被写体ほど強く表示される傾向にあります。正確なピント位置を保証するものではありません。

ボタン機能

MENU ➜ ✿ ➜ B ➜ [ボタン機能]

登録できる機能については、下記の表をご覧ください。ボタンによって選択できる機能は異なります。

ボタン機能項目

[Fnボタン機能] / [Qボタン機能] / [◉ボタン機能] [*1] / [▷ボタン機能] / [▽ボタン機能] / [ボタン機能]([ダイレクト機能] [*2] / [[▪▪▪]] [*3]) / [L-Fnボタン機能] [*4]

*1 🎥モードでは、変更できません。

*2 △▽◁▷のそれぞれに機能を割り当てます。

*3 AFターゲットを選択します。

*4 一部のレンズに搭載されているボタンの機能を設定します。

☒	露出補正をします。
ISO感度	ISO感度の設定をします。
WB(WBモード)	ホワイトバランスの設定をします。
AEL/AFL	AEロックやAFロックとして働きます。**[AEL/AFLモード]**の設定により機能は変わります。AELのときは、一度ボタンを押すと露出が固定され画面にAELが表示されます。もう一度ボタンを押すと解除します。
◉REC	ボタンを押すと、ムービーを撮影できます。
プレビュー	ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。
ワンタッチWB	ボタンを押すと、ホワイトバランスの値を取得します(P.45)。
[▪▪▪](AFターゲット選択)	AFターゲットの設定をします。
[▪▪▪] Home	ボタンを押すと、**[[▪▪▪] Home登録]**(P.76)で登録したAFのホームポジションに切り換わります。ホームポジションのAFにはHPマークが表示されます。再度押すと、AFターゲットモードに戻ります。ホームポジションに切り換えた状態で電源をオフにすると、ホームポジションに切り換える前のAFターゲット位置はリセットされます。
MF切換	ボタンを押すと、AF方式が**[MF]**に切り換わります。再度押すと、元のAF方式に切り換わります。
RAW ◀⁝	ボタンを押すと、JPEG撮影時の画質はRAW+JPEGに、RAW+JPEGはJPEGに切り換わります。
試し撮り撮影	ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像を記録せずにモニターに表示します。
マイセット撮影1 ~ マイセット撮影4	ボタンを押している間、登録されているマイセットの設定に切り換わります。
バックライト	モニターの点灯/消灯をします。

⛶/⛶	防水プロテクタ装着時に、ボタンで⛶と⛶を切り換えられます。ボタンを押し続けると元の撮影モードに戻ります。WBモードで⛶（水中）が設定できるようになります。ED12-50mmEZレンズを電動ズーム（E-ZOOM）で使用中は、⛶、⛶の切り換えに連動してズームを広角端、望遠端に自動的にセットします。
ライブガイド	ボタンを押すとライブガイドを表示します。
⛶（デジタルテレコン）	ボタンを押すたびにOnとOffの切り換えができます。
⛶（拡大）	ボタンを押すと拡大枠が表示され、もう一度押すと画像が拡大されます。ボタンを長押しすると拡大枠表示を中止します。
ピーキング	ボタンを押すたびに表示／非表示が切り換わります。ピーキング表示中は、ヒストグラムやハイライト／シャドー表示はできません。
AF停止	AF動作を停止します。
⛶/⛶	連写やセルフタイマーの設定をします。
⛶	フラッシュの発光モードの設定をします。
HDR BKT切換	記憶されている設定でHDR BKT撮影に設定されます。
AE BKT切換	記憶されている設定でAE BKT撮影に設定されます。
ART BKT切換	記憶されている設定でART BKT撮影に設定されます。

⛶レバー機能

MENU ➜ ⛶ ➜ ⛶ ➜ [⛶レバー機能]

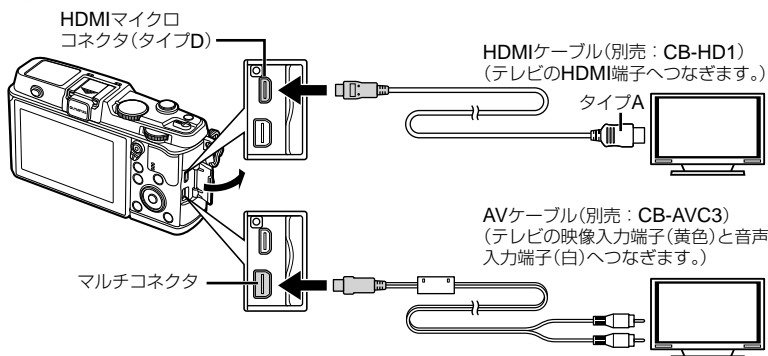
レバーの位置によってダイヤルやボタンの機能を切り換えることができます。

レバー位置とダイヤル／ボタン機能分担一覧

モード	レバー位置=1のとき	レバー位置=2のとき
mode1	ダイヤルの機能は **[ダイヤル機能]** 設定に従います。	メインダイヤル：ホワイトバランス サブダイヤル：ISO
mode2	ダイヤルの機能は **[ダイヤル機能]** 設定に従います。	メインダイヤル：ISO サブダイヤル：ホワイトバランス
mode3	◉ボタンの機能は **[◉ボタン機能]** に従います。	◉ボタンでムービー撮影の開始／停止をします。
mode4	それぞれのレバー位置で設定したAF方式で動作します。レバー位置=2の初期設定は **[MF]** です。	

4 メニューの機能（カスタムメニュー）

カメラの画像をテレビで見る

別売のケーブルを使ってテレビに接続して画像を再生します。HDMIケーブルを使ってハイビジョン対応のテレビに接続すると、高画質な画像をテレビで観ることができます。

1 テレビとカメラをケーブルで接続します。

- 使用するテレビの入力設定はあらかじめ合わせてください。
- A/Vケーブルで接続する場合は、あらかじめカメラのビデオ出力を設定してください。

2 テレビの入力を切り換えます。

- ケーブルを接続するとカメラのモニターは消灯します。
- AVケーブルで接続した場合、▶ボタンを押してください。

注意

- テレビの入力切り換えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。
- AVケーブルとHDMIケーブルの両方がカメラとテレビに接続されている場合は、HDMIが優先されます。
- HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号形式を選ぶことができます。テレビの入力設定に合わせて選択してください。

1080i優先	1080iを優先してHDMI出力します。
720p優先	720pを優先してHDMI出力します。
480p/576p	480p/576p形式でHDMI出力します。**[ビデオ出力]**(P.78)が**[PAL]**設定時は576pで再生します。

- HDMIケーブルの接続中は撮影できません。
- 他のHDMI出力機器と接続しないでください。故障の原因となります。
- パソコンやプリンタとのUSB接続中は、HDMI出力は行われません。

■ テレビのリモコンを使う

HDMIによるコントロールに対応したテレビに接続すると、テレビのリモコンで操作することができます。

1 カスタムメニューのタブで［**HDMI**］を選択します。

2 ［**HDMIコントロール**］を選択し、［**On**］に設定します。

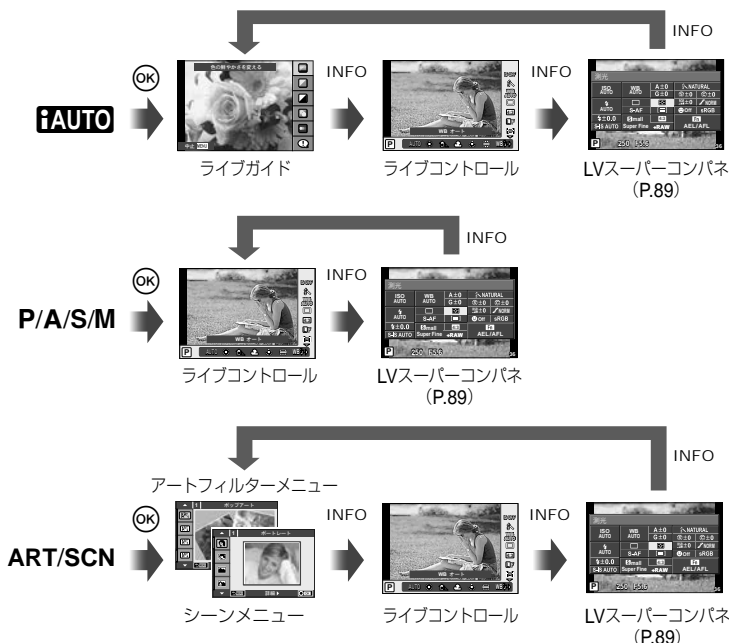
3 テレビのリモコンで操作します。

- テレビに表示された操作ガイドにしたがって操作できます。
- 1コマ再生のときに、リモコンの「**赤**」ボタンで情報表示の切り換え、「**緑**」ボタンでインデックス表示への切り換えができます。
- テレビによっては使用できない機能があります。

操作画面の表示を選ぶ（Control表示）

撮影モードで機能を設定する、各操作画面の表示、非表示を設定します。

撮影モード別表示可能な操作画面

- INFOボタンを押して表示を切り換えます。

LVスーパーコンパネ

撮影の設定状態を一覧表示するLVスーパーコンパネを使って機能の設定ができます。タッチ操作や十字ボタンで機能を選択して設定を変更します。

使用可能な設定機能

① 現在選択している機能
② ISO感度.......................................P.45
③ 連写／セルフタイマー P.43
④ フラッシュモード...........................P.38
⑤ フラッシュ補正値...........................P.57
⑥ ホワイトバランス...........................P.44
　 ホワイトバランス補正 P.44
⑦ ピクチャーモード...........................P.54
⑧ シャープネス Ⓢ.............................P.64
　 コントラスト Ⓒ.............................P.64
　 彩度 RGB P.64
　 階調 P.64
　 フィルター効果 Ⓕ P.64
　 調色 Ⓣ..P.65
⑨ カラー設定 P.81
⑩ ボタン機能割当て...........................P.85
⑪ 顔優先...P.41
⑫ 測光方式 P.58
⑬ アスペクト比 P.55
⑭ 画質モード P.56
⑮ AF方式 P.59
　 AFターゲット................................P.40
⑯ 手ぶれ補正 P.53

注意

• ムービー撮影モードでは表示されません。

1 LVスーパーコンパネを表示します。

• カスタムメニューで表示が設定されているときは、Ⓞボタンを押して**INFO**を繰り返し押すと表示されます。☞［**Control表示**］（P.88）

2 設定する機能にタッチします。

• タッチした機能にカーソルが表示されます。

3 Ⓞボタンを押して、設定値を選択します。

メモ

• ARTやSCNのメニュー画面でも使えます。選択するアイコンにタッチします。

情報表示の画面を追加する（▦/Info表示設定）

LV-Info（撮影情報表示）

［**LV-Info**］で以下の撮影情報表示画面を追加できます。追加した画面は、撮影時に**INFO**ボタンを繰り返し押すと表示されます。また、初期設定で表示されている画面を非表示にすることもできます。

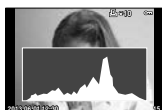
ヒストグラム表示

ハイライト&シャドウ表示

ハイライト&シャドウ表示

画像の明るさの上限値以上の部分を赤、下限値以下の部分を青で表示します。☞［**ヒストグラム警告設定**］（P.78）

▶Info（再生情報表示）

［**▶Info**］で以下の再生情報表示画面を追加できます。追加した画面は、画像再生時に**INFO**ボタンを繰り返し押すと表示されます。また、初期設定で表示されている画面を非表示にすることもできます。

ヒストグラム表示

ハイライト&シャドウ表示

ライトボックス表示

ライトボックス表示

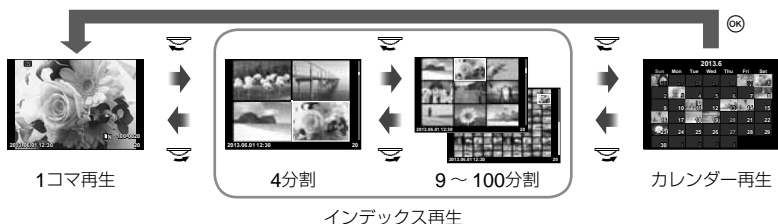
2枚の画像を並べて表示して比較できます。Ⓚボタンを押すと、左右の画像を切り換えることができます。

- 右の画面で基準にする画像を選びます。◁▷で画像を選んでⓀボタンを押すと、その画像が左の画面に移動します。左の画面の画像と比較する画像を右の画面で選びます。基準とする画面を変えるときは、右の画面で選んでⓀボタンを押します。
- 🔍ボタンを押すとそれぞれの画面を拡大して表示できます。メインダイヤルを回すと拡大倍率を変更できます。
  拡大中は、△▽◁▷で拡大範囲をスクロール、サブダイヤルで画像の選択ができます。

表示(インデックス／カレンダー表示)

[表示]で、異なった分割数のインデックス表示画面と、カレンダー表示画面を追加できます。追加した画面は、画像再生時にメインダイヤルを回すと表示されます。

1コマ再生　4分割　9～100分割　カレンダー再生

インデックス再生

フラッシュ自動発光時のシャッター速度[同調速度][低速制限]

フラッシュが発光するときのシャッター速度の条件を設定できます。

撮影モード	フラッシュ発光秒時(同調秒時)	上限	下限
P	1/（レンズの焦点距離× 2)または [同調速度]設定のいずれか低い秒時	[同調速度] 設定*	[低速制限] 設定
A			
S	シャッター速度設定による		制限無し
M			

* 内蔵フラッシュは1/320秒、別売の専用フラッシュは1/250秒

アクセサリーポートメニューを使う

アクセサリーポートの機器に関する設定ができます。

アクセサリーポートメニューを使う前に

アクセサリーポートメニューの設定を変更するには、セットアップメニューの**[⚙/▣メニュー表示]**を設定してアクセサリーポートメニューを表示させせます。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示してｆ（セットアップメニュー）を表示します。

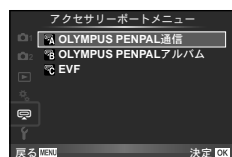
2 **[⚙/▣メニュー表示]**を選択して、**[▣メニュー表示]**を**[On]**に設定します。

- メニューに▣（アクセサリーポートメニュー）のタブが表示されます。

アクセサリーポートメニュー

A OLYMPUS PENPAL通信（P.95）
B OLYMPUS PENPALアルバム（P.95）
C EVF（P.95）

4

メニューの機能（アクセサリーポートメニュー）

OLYMPUS PENPALを使う

別売のOLYMPUS PENPALを使うと、Bluetooth機器やOLYMPUS PENPALを装着したカメラと、画像の送受信ができます。Bluetooth機器に関する情報は当社ホームページをご確認ください。

■ 画像をあげる

JPEG画像をリサイズして相手機器に送信します。相手機器をあらかじめデータ受信モードに設定してください。

1 1コマ再生画面で送りたい画像を選択して、OKボタンを押します。

2 **[画像を送る]**を選択して、OKボタンを押します。

- 次の画面で**[検索]**を選んでOKボタンを押します。検索が行われ送信先が表示されます。

3 送信先を選択して、OKボタンを押します。

- 画像が送信されます。
- PINコード入力を要求された場合は、0000を入力してOKボタンを押します。

■ 画像をもらう／送信元を登録する

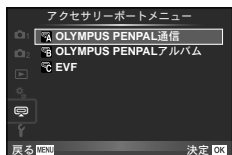
相手機器を登録してJPEG画像を受信します。

1 アクセサリーポートメニュー（P.92）で、**[OLYMPUS PENPAL通信]**を選択します。

2 **[画像/登録を受ける]**を選択して、OKボタンを押します。

- 相手機器で画像送信の操作をします。
- 通信が始まり、**[接続リクエスト]**画面が表示されます。

3 **[許可]**を選択して、OKボタンを押します。

- 画像を受信します。
- PINコード入力を要求された場合は、0000を入力してOKボタンを押します。

■ アドレス帳を編集する

OLYMPUS PENPALで通信した機器を登録できます。機器別に名前を付けたり登録情報を消去することができます。

1 アクセサリーポートメニュー（P.92）で、[OLYMPUS PENPAL通信]を選択します。

2 [アドレス帳]を選択して、ボタンを押します。

3 [アドレス一覧]を選択して、ボタンを押します。

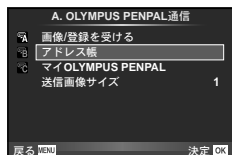
- 登録済みの機器名が表示されます。

4 編集する機器を選択して、ボタンを押します。

削除する場合

[実行]を選択して、ボタンを押します。

詳細情報を編集する場合

ボタンを押すと詳細情報が表示されます。さらにボタンを押すと名前編集画面が表示され、名前を編集できます。

■ アルバムを作る

お気に入りのJPEG画像をリサイズしてOLYMPUS PENPALにコピーします。

1 1コマ再生画面でコピーしたい画像を選択して、ボタンを押します。

2 [SD → PENPAL]を選択して、ボタンを押します。

- [PENPAL → SD]を選択するとOLYMPUS PENPALからカードにコピーできます。

注意

- OLYMPUS PENPALは、購入した地域以外では使用できません。地域によっては電波管理規制に違反する、その処罰の対象となることがあります。

OLYMPUS PENPAL 通信

MENU ➔ ➔

メニュー項目	説明	☞
画像/登録を受ける	画像を受信したり、通信先をアドレス帳に登録します。	93
アドレス帳	[アドレス一覧]：登録してあるアドレスを表示します。 [新規登録]：新規に通信先のアドレスを登録します。 [検索時間]：通信先を探すタイムアウト時間を設定します。	94
マイOLYMPUS PENPAL	名前／アドレス／対応サービスなどの自機情報を表示します。自機情報画面でⓄボタンを押すと名前を編集できます。	94
送信画像サイズ	送信する画像のリサイズレベルを設定します。 [サイズ1]：640×480 相当にリサイズします。 [サイズ2]：1920×1440 相当にリサイズします。 [サイズ3]：1280×960 相当にリサイズします。	93

OLYMPUS PENPAL アルバム

MENU ➔ ➔

メニュー項目	説明	☞
全コマコピー	コピー画像サイズの指定に応じてリサイズし、すべてのJPEG画像と音声ファイルを、SDカードとOLYMPUS PENPALの間でコピーします。	94
全プロテクト解除	OLYMPUS PENPAL アルバム内のすべての画像のプロテクトを解除します。	94
アルバム保存状況	[サイズ2]の換算で保存枚数／残枚数を表示します。	94
セットアップ	[全コマ消去]：アルバム内のすべての画像を消去します。 [アルバム初期化]：アルバムをフォーマット（初期化）します。	94
コピー画像サイズ	コピーする画像のリサイズレベルを設定します。 [サイズ1]：リサイズしません。 [サイズ2]：1920×1440 相当にリサイズします。	94

EVF

MENU ➔ ➔

メニュー項目	説明	☞
EVF調整	外付け電子ビューファインダーの明るさと色温度を調整します。色温度の調整は再生時のモニター表示に適用されます。◁▷で🌡（色温度）と☼（明るさ）を切り換え、△▽で[+7]～[–7]の範囲で調整します。 EVF調整 -5 +2 戻る MENU 決定 OK	—
EVF自動切換設定	外付け電子ビューファインダー VF-4使用時にモニターとの間で表示を自動的に切り替えるかどうかを設定します。 [Off]にすると外付けビューファインダーの▭ボタンで、ファインダーとモニターの表示を切り替えられます。[On]にすると、VF-4をのぞいたときに自動的に切り替わります。	119

5 撮影した画像をプリントする

プリント予約(DPOF)

プリントしたい画像や枚数などをあらかじめ指定しておくと、その情報がカードに保存されます。プリント予約した画像は、DPOF対応のプリントショップでプリントしたり、DPOF対応プリンタに直接接続してプリントできます。プリント予約にはカードが必要です。

プリント予約する

1 画像を再生中に、Ⓞボタンを押して[**プリント予約**]を選択します。

2 [**1コマ予約**]または[**全コマ予約**]を選択し、Ⓞボタンを押します。

カードプリント予約
1コマ予約
全コマ予約
戻る MENU　決定 OK

1コマ予約の場合

◁▷を押してプリント予約したいコマを選択し、△▽を押してプリントする枚数を設定します。

- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。予約が終わったらⓄボタンを押します。

全コマ予約の場合

[**全コマ予約**]を選択し、Ⓞボタンを押します。

3 日時の種類を選択し、Ⓞボタンを押します。

無し	画像のみプリントされます。
日付	画像と撮影年月日がプリントされます。
時刻	画像と撮影時刻がプリントされます。

4 [**予約する**]を選択し、Ⓞボタンを押します。

注意

- 他の機器で予約した内容を、このカメラで変更することはできません。また、このカメラで新たに予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- 3D画像、RAWデータ、およびムービーはプリント予約できません。

プリント予約を選択して解除する／すべて解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 画像を再生中に、Ⓞボタンを押して[**プリント予約**]を選択します。

2 [**1コマ予約**]を選択し、Ⓞボタンを押します。

- すべてのプリント予約を解除する場合は、[**解除する**]を選択して、Ⓞボタンを押します。そうでない場合は[**解除しない**]を選択してⓄボタンを押します。

3 ◁▷を押してプリント予約を解除したいコマを選択します。

- ▽でプリント枚数を0に設定します。すべて解除したらⓄボタンを押します。

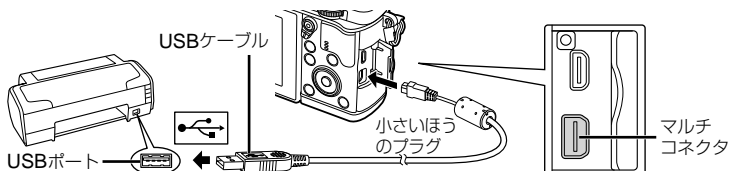
4 日時の種類を選択し、Ⓞボタンを押します。

- プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。

5 [**予約する**]を選択し、Ⓞボタンを押します。

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。

1 カメラとプリンタを付属のUSBケーブルで接続し電源を入れます。

- プリントを始める際は、充電した電池をご使用ください。
- カメラの電源を入れると、モニターに接続先を選択する画面が表示されます。画面が表示されないときは、カスタムメニューの[**USB接続モード**]（P.79）を[**オート**]に設定してください。

2 △▽で[プリント]を選択します。

- [**しばらくお待ちください**]と表示された後、プリントモード選択画面が表示されます。
- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USBケーブルを抜き、手順1からやりなおしてください。

「カスタムプリントでプリントする」（P.98）へ進む

注意

- 3D画像、RAWデータ、およびムービーはプリントできません。

5 撮影した画像をプリントする

かんたんプリントでプリントする

この方法でプリントするときは、プリントしたい画像をカメラに表示してから、USBケーブルでプリンタを接続します。

1 ◁▷を押して、プリントする画像をカメラに表示します。

2 ▷を押します。

- プリントが終わると画像選択の画面が表示されます。別の画像をプリントするときは◁▷を押して画像を選択し、Ⓞボタンを押します。
- 終了するときは、画像選択の画面が表示された状態でカメラからUSBケーブルを抜きます。

カスタムプリントでプリントする

1 操作ガイドにしたがってプリントの各設定をします。

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

プリント	選択した画像をプリントします。
全コマプリント	カードの中の全画像をプリントします。
マルチプリント	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
全コマインデックス	カード内の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
予約プリント	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像がないときは、選択できません。

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

サイズ	プリンタで用意されている用紙に合わせます。
フチ	用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。
分割数	同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで **[マルチプリント]** を選択すると、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像を後でまとめてプリント(1枚予約)したり、表示している画像をプリントすることができます。

プリント(OK)	表示している画像をプリントします。**[1枚予約]**をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。
1枚予約(△)	表示している画像をプリントする予約をします。**[1枚予約]**をしたら、◁▷で次に予約したい画像を選んでください。
詳細予約(▽)	表示している画像のプリント枚数や情報、プリントするかどうかを設定します。操作については「プリントする情報を設定する」をご覧ください。

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。**[全コマプリント]**モードの場合、**[オプション設定]**を選択すると右の画面が表示されます。

プリント枚数	プリントする枚数を設定します。
日付	画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。
ファイル名	画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。
トリミング	画像をトリミングしてプリントします。ダイヤルでトリミングサイズを、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。

2 プリントする画像や内容が決まったら、**[プリント]**を選択し、Ⓞボタンを押します。

- プリントを始めてから途中で停止したいときは、Ⓞボタンを押します。プリントを続行するには、**[続行]**を選択します。

■ プリントを中止するには

[中止]を選択して、Ⓞボタンを押します。その場合、設定した予約などはすべて失われます。予約した内容を残して、続けて予約や設定をしたいときは、MENUボタンを押します。1つ前の設定に戻ります。

6 パソコンに接続する

ソフトウェアのインストール

■ Windows

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを入れます。

Windows XPの場合

- 「セットアップ」画面が表示されます。

Windows Vista/Windows 7/Windows 8の場合

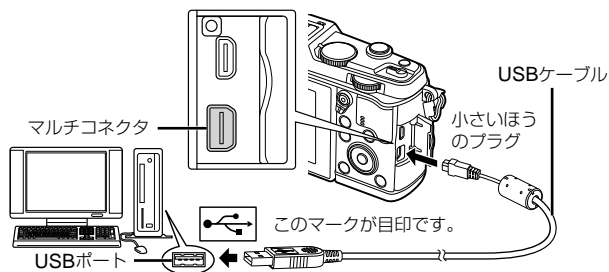
- 自動起動の画面が表示されますので、「OLYMPUS Setup」をクリックしてください。「セットアップ」画面が表示されます。

注意

- 「セットアップ」画面が表示されない場合は、スタートメニューから「マイコンピュータ」(Windows XP)/「コンピュータ」(Windows Vista)/「コンピューター」(Windows 7)をクリックし、次にCD-ROM (OLYMPUS Setup)のアイコンをダブルクリックして「OLYMPUS Setup」ウィンドウを開きます。最後に、「LAUNCHER.EXE」をダブルクリックしてください。
- 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」または「続行」をクリックしてください。

2 カメラをパソコンに接続します。

注意

- カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合、電池残量が著しく不足している可能性があります。充電した電池を使用してください。

注意

- カメラと他の機器をUSB接続すると、その機器との接続方法を選ぶ設定画面が表示されます。**[ストレージ]**に設定してください。

3 ユーザー登録を行います。

- 「ユーザー登録」ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがって操作を行ってください。

4 OLYMPUS Viewer 3のインストールを行います。

- インストールを行う前に動作環境を確認してください。
- 「OLYMPUS Viewer 3」ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがってインストールを行ってください。

OS	Windows XP（SP2 以上）/Windows Vista/ Windows 7/Windows 8
CPU	Pentium 4 1.3GHz 以上 （ムービーを扱う場合：Core2Duo 2.13GHz以上）
RAM	1GB 以上（2GB 以上推奨）
HDDの空き容量	3GB 以上
モニター	1024×768 ドット以上、65,536色以上（1,677万色以上推奨）

- ソフトウェアの詳しい使い方は、ソフトウェアのヘルプをご参照ください。

■ Macintosh

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを入れます。

- CD-ROMをMacに挿入すると自動的にFinderでドライブ内が表示されます。自動的に開かなかった場合は、デスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックしてください。
- 「Setup」アイコンをダブルクリックすると、「セットアップ」画面が表示されます。

2 OLYMPUS Viewer 3のインストールを行います。

- インストールを行う前に動作環境を確認してください。
- 「OLYMPUS Viewer 3」ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがってインストールを行ってください。

OS	Mac OS X v10.5-v10.8
CPU	Intel Core Solo / Duo 1.5GHz以上 （ムービーを扱う場合：Core2Duo 2GHz以上）
RAM	1GB 以上（2GB 以上推奨）
HDDの空き容量	3GB 以上
モニター	1024×768 ドット以上、32,000色以上（1,677万色以上推奨）

- 言語を変更したい場合は、言語コンボボックスからご使用の言語を選択してください。ソフトウェアの詳しい使い方は、ソフトウェアのヘルプをご参照ください。

OLYMPUS Viewer 3を使わずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下の通りです。

Windows： **Windows XP Home Edition/ Windows XP Professional/ Windows Vista/Windows 7/Windows 8**

Macintosh： **Mac OS X v10.3以降**

1 カメラの電源が切れていることを確認し、カメラとパソコンを接続します。

- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を入れます。

- モニターにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 △▽を押して[ストレージ]を選択します。
Ⓞボタンを押します。

4 カメラが新しい機器としてパソコンに認識されます。

注意

- Windows Vista/Windows 7/Windows 8 をお使いの場合は、手順3で[MTP]を選択することでWindowsフォト ギャラリーが使用できます。
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン／工場出荷時にOSがインストールされていないパソコン／自作パソコン
- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。
- パソコンとカメラを接続したときに、手順2の画面が表示されない場合は、カスタムメニューの**[USB接続モード]**（P.79）を**[オート]**に設定してください。

6 パソコンに接続する

カメラの無線LAN機能を使う

本機の無線LAN機能を使って、スマートフォンと無線LAN接続することができます。無線LAN接続では次のことができます。

- カメラのカードに記録された画像を閲覧、転送をする
- スマートフォンの位置情報を使って画像に位置情報を追加する
- スマートフォンを使ってカメラを操作する

これらの操作は、スマートフォン用アプリをインストールしたスマートフォンを使う必要があります。スマートフォン用アプリ“OI.Share（OLYMPUS IMAGE SHARE）”については、当社ホームページをご確認ください。

注意

- 無線LAN機能を使用する前に「無線LANについてのご注意」（P.137）をよくお読みください。
- 本機を購入した地域以外での無線LAN機能の使用については、その国の電波管理規則に違反する恐れがありますので、当社では一切の責任は負えません。
- 電波による通信は、傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 本機の無線LAN機能を使って、自宅や公衆のアクセスポイントに接続することはできません。

■ スマートフォンの準備

スマートフォン用アプリ“OI.Share”をスマートフォンにインストールしておきます。スマートフォンでOI.Shareを起動します。

■ カメラの準備

接続には以下の方法があります。

プライベート接続： 毎回同じパスワードを使って接続します。自分のスマートフォンに画像を転送するなどいつも決まった機器に接続するときに使います。

ワンタイム接続： 接続するたびに異なるパスワードを使って接続します。複数の友人の間で画像を共有したいときなどのその場限りの接続に使います。

無線LAN接続する際の方法を設定しておきます。☞「無線LAN接続のための設定をする（Wi-Fi設定）」（P.75）

■ プライベート接続の場合

接続には以下の方法があります。

1 [再生メニュー]から[スマートフォン接続]を選択してⓄⓀを押します。

2 モニターに表示されるガイドに従ってⓄⓀボタンを押して進んでください。

- モニターにSSIDとパスワードとQRコードが表示されます。

3 SSIDとパスワードをスマートフォンに入力します。

- スマートフォンでOI.Shareを使ってQRコードを読み取ると自動的に入力されます。
- 2回目以降の接続では、自動的に接続されます。
- スマートフォンのOI.Shareでカメラの画像一覧が表示されます。

■ ワンタイム接続の場合

1 [再生メニュー]から[スマートフォン接続]を選択してⓄⓀを押します。

- モニターにSSIDとパスワードとQRコードが表示されます。

2 SSIDとパスワードをスマートフォンに入力します。

- スマートフォンでOI.Shareを使ってQRコードを読み取ると、自動的に入力されます。
- 2回目以降の接続では、はじめにパスワードを変更するかどうかの確認が表示されます。

■ 接続の終了

1 カメラのMENUボタンを押すか、モニター画面の[ストップ]にタッチします。

- OI.Shareで接続を終了、カメラの電源オフをすることもできます。
- 接続を終了します。

注意

- 無線LAN機能とOLYMPUS PENPAL、Eye-Fiカードなどの併用は、カメラの性能を著しく低下させる場合があります。
- 送信用アンテナは、カメラグリップ部にあります。なるべく手でふさがないでください。
- 接続中は、バッテリーの消耗が早くなります。バッテリーの残量が少ないと通信中でも通信が途切れる場合があります。
- 電子レンジやコードレス電話機など、磁場、静電気、電波の発生するところでは通信しにくくなったり、速度が遅くなったりします。

OI.Shareを使ってできること

■ カメラの日時設定をスマートフォンと合わせる

カメラの画像に位置情報を加えるためにスマートフォンとカメラの時刻設定を合わせておきます。OI.Shareで時刻の同期を開始します。

- 時刻が合うまで数十秒かかる場合があります。

■ スマートフォンの位置情報を画像につける

1 OI.Shareで、位置情報の記録を開始します。

- 所定時間ごとの位置情報がスマートフォンに記録されます。

2 接続を終了します。

- カメラは撮影可能状態になります。

3 位置情報の必要がなくなったら、OI.Shareで、位置情報の記録を停止します。

4 カメラの[スマートフォン接続]を開始します。

5 OI.Shareで、位置情報の送信を開始します。

- カードの画像に位置情報が付与されます。位置情報が付与された画像には、が表示されます。

注意

- ムービーには位置情報は付与されません。

■ 画像をシェアする

画像に[シェア予約]をすることで、特定の画像だけを閲覧できるようにします。

1 画像を再生して、[シェア予約]（P.48）をします。

2 [ワンタイム接続]でWi-Fi接続をします。

■ カメラを操作する

カメラをスマートフォンから操作しての撮影操作ができます。[プライベート接続]でのみ使用できます。

1 カメラの[スマートフォン接続]を開始します。

- 撮影画面のWi-Fiにタッチしても接続できます。
- カメラはi-AUTOに設定されます。

2 スマートフォンで撮影します。

注意

- 位置情報の記録はGPS機能をもったスマートフォンでのみ使用できます。
- 無線LAN接続を使ったカメラの操作では、使用できる機能に一部制限があります。

7 その他

こんなときは?

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

- 電池は低温では性能が低下します。カメラから電池を取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入ります。☞ [スリープ時間] (P.79)
  さらに一定時間(4時間)が経過するとカメラの電源が切れます。

フラッシュが充電中である

- モニターの⚡マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

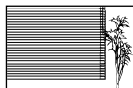
- 被写体に近すぎる場合やオートフォーカスの苦手な被写体の場合は、ピント合わせができません。(モニターの合焦マークが点滅します。)被写体との距離を十分にとったり、被写体と同じ距離にあるコントラストのはっきりしたものでピントを合わせてから、構図を決めて撮影してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

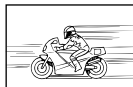
次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のない被写体

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

被写体がAFターゲット内にない

長秒時ノイズ低減が作動している

- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。**[長秒時ノイズ低減]**は**[Off]**に設定することもできます。
  ☞ **[長秒時ノイズ低減]**（P.79）

AFターゲットの数が少なくなった

[デジタルテレコン]、アスペクト比、グループターゲットの設定により、AFターゲットの数や大きさが変わります。

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

- お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞「日時を設定する」（P.14）

カメラから電池を抜いていた

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

設定した機能が元に戻ってしまう

P/**A**/**S**/**M**以外の撮影モードでは、モードダイヤルを回したり電源を切ると設定した機能が初期設定に戻ります。

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストといわれる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。☞「交換レンズについて」（P.115）

被写体にない明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。**[ピクセルマッピング]**を行ってください。
また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。☞「画像処理機能をチェックする ― ピクセルマッピング」（P.111）

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- 設定済みの項目との組み合わせにより設定できない場合
  [□H]と**[長秒時ノイズ低減]**の組み合わせなど

7 その他

エラーコード

モニター表示	原因	対処方法
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。スイッチを戻して解除してください。（P.113）
撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに十分な空き容量がありません。	
カードセットアップ カードの金属面を乾拭きしてください。 カードを拭く カード初期化 決定 OK	カードが読み込めていません。またはカードが初期化されていません。	• **[カードを拭く]**を選択し、OKボタンを押してカメラの電源を切ります。カードを抜いて乾いた柔らかい布で金属面を乾拭きしてください。 • **[カード初期化]** ▶ **[実行]**の順に選択し、OKボタンを押して初期化します。初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。
画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
コピーできません	通信中の機器との間で画像の受け渡しができません。	不要な画像を消すなどしてカードの空き容量を増やしてください。または、送信する画像のサイズの設定を小さくします。

モニター表示	原因	対処方法
°C/°F	連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	カメラの電源を切り、内部温度が下がるまでしばらくお待ちください。
しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください		しばらくすると、自動的に電源が切れます。 カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
接続されていません	カメラがパソコンやプリンタ、HDMI機器に正しく接続されていません。	正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。
ズームリングを回し繰り出してください。	沈胴式レンズの、レンズが沈胴したままになっています。	レンズを繰り出してください。（P.12）
レンズの状態を確認してください。	レンズとの間でエラーが発生しています。	カメラの電源を切り、レンズとの接続状態を確認してから電源を入れなおしてください。

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、固く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を固く絞って拭き取ります。

モニター：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ：

- 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。
- ボディキャップ、リアキャップはゴミやほこりを落としてから装着してください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。また、必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 使用後は清掃して保管してください。
- 防虫剤のあるところに保管しないでください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやほこりを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、カメラの電源を入れたときに働きます。
また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、カビが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影·再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 カスタムメニュー（P.83）のタブで**[ピクセルマッピング]**を選択します。

2 ▷を押して、ボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中の**[処理中]**バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のEマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

8 電池と充電器について

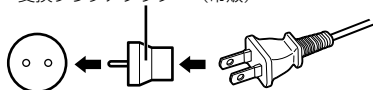
電池／充電器についてのご注意

- 電池は、当社製リチウムイオン電池1個を使用します。当社純正の充電池以外は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - 長時間、モニターで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に付属の充電器で充電を行ってください。
- 付属の充電器による充電池の充電時間は、通常約3時間30分（目安）です。
- 付属の電池は専用の充電器以外は使用しないでください。また、付属の充電器は専用の電池以外に使用しないでください。

注意

- 指定以外の電池を使用した場合、爆発（または破裂）の危険があります。使用済み電池は取扱説明書の「電池について」（P.138）にしたがって廃棄してください。

海外での使用について

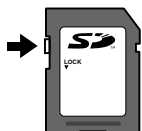
- 充電器は、世界中のほとんどの家庭用電源AC100 ～ 240V（50/60Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。
- イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

9 カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、SD規格に準拠したSD/SDHC/SDXC/Eye-Fiカード（市販）です。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについて

SDカード本体は書き込み禁止スイッチを備えています。スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットができなくなります。スイッチを戻すと書き込み可能になります。

注意

- 初期化や消去してもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- Eye-Fiカードは使用する国や地域の法律にしたがってお使いください。飛行機の中など使用を禁止される場所では、カードをカメラから取り出すか、カードの機能を停止してください。☞ **[Eye-Fi設定]**（P.83）
- Eye-Fiカードは使用時に熱くなることがあります。
- Eye-Fiカードを使用すると電池の消耗が早くなることがあります。
- Eye-Fiカードを使用するとカメラの動作が遅くなることがあります。

画質モード／ファイル容量／撮影可能枚数

表内のファイルサイズは、アスペクト比4:3のときのおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ（ピクセルサイズ）	圧縮率	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数 *
RAW	4608×3456	ロスレス圧縮	ORF	約17	41
LSF		1/2.7	JPEG	約11	79
LF		1/4		約7.5	114
LN		1/8		約3.5	248
LB		1/12		約2.4	369
MSF	3200×2400	1/2.7		約5.6	155
MF		1/4		約3.4	257
MN		1/8		約1.7	508
MB		1/12		約1.2	753
MSF	2560×1920	1/2.7		約3.2	271
MF		1/4		約2.2	398
MN		1/8		約1.1	782
MB		1/12		約0.8	1151
MSF	1920×1440	1/2.7		約1.8	476
MF		1/4		約1.3	701
MN		1/8		約0.7	1356
MB		1/12		約0.5	1968
MSF	1600×1200	1/2.7		約1.3	678
MF		1/4		約0.9	984
MN		1/8		約0.5	1906
MB		1/12		約0.4	2653
SSF	1280×960	1/2.7		約0.9	1034
SF		1/4		約0.6	1488
SN		1/8		約0.4	2773
SB		1/12		約0.3	3813
SSF	1024×768	1/2.7		約0.6	1564
SF		1/4		約0.4	2260
SN		1/8		約0.3	4068
SB		1/12		約0.2	5547
SSF	640×480	1/2.7		約0.3	3589
SF		1/4		約0.2	5085
SN		1/8		約0.2	7627
SB		1/12		約0.1	10170

＊ SDカード1GBの場合

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもモニターに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。
- モニターに表示される撮影枚数は9999までです。
- ムービーの録画可能時間については、当社ホームページをご確認ください。

10 交換レンズについて

撮影シーン、目的に合わせてレンズを交換します。M.ZUIKO DIGITALという商品名、または右のマークのついている「マイクロフォーサーズシステム専用」の交換レンズが使えます。
また、フォーサーズシステムのレンズやOMシステムのレンズを使用することもできます。その場合は別売のアダプターが必要です。

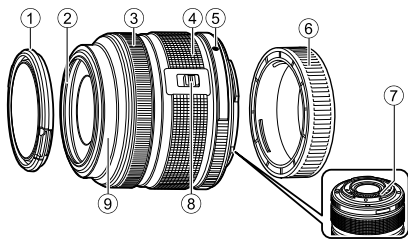
MICRO FOURTHIRDS

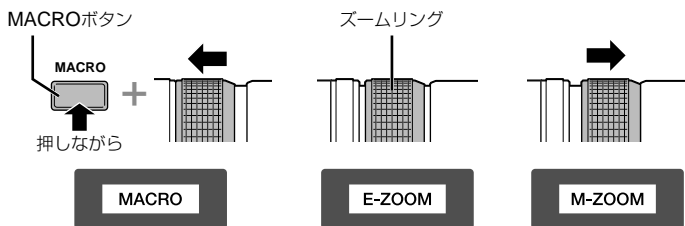
注意

- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- ほこりの多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

主なM.ZUIKO DIGITALレンズの仕様

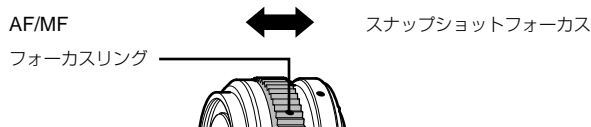
■ 各部の名称

① フロントキャップ
② フィルター取り付けネジ
③ フォーカスリング
④ ズームリング（ズームレンズのみ）
⑤ 取り付け指標
⑥ リアキャップ
⑦ 電気回路接点
⑧ UNLOCK（アンロック）スイッチ（沈胴式レンズのみ）
⑨ デコレーションリング（一部レンズのみ、レンズフード取り付け時は外します）

■ マクロ機能付き電動ズームレンズの操作（ED12-50mm f3.5-6.3EZ）

ズームリングの位置で以下の動作を変更します。

E-ZOOM（電動ズーム）	ズームリングを回すと電動でズーミングします。 ズームリングを回す角度でズーミングの速さが変わります。
M-ZOOM（手動ズーム）	ズームリングを回してズーミングします。
MACRO（マクロ撮影）	MACROボタンを押しながらズームリングを前にスライドすると、0.2 ～ 0.5mまでのマクロ撮影ができます。ズームは使えません。

- **L-Fn**ボタンは、カメラのカスタムメニューで割り当てる機能を決めることができます。

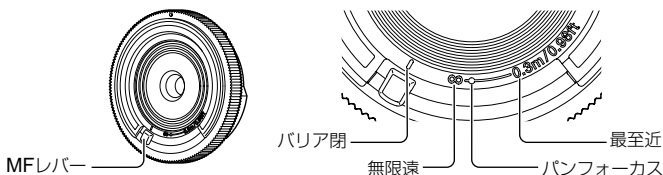
■ スナップショットフォーカスの操作（17mm f1.8、ED12mm f2.0）

フォーカスリングを矢印の方向にスライドさせて、フォーカス方法を切り替えます。

スナップショットフォーカスでは、撮影距離を目安にフォーカスリングで距離を設定します。カメラで設定した絞り値に応じた被写界深度目盛の距離にピントが合います。

- F5.6以上に絞り込んでの使用をおすすめします。
- カメラのAF方式にかかわらず、設定した距離で撮影できます。

■ キャップレンズの操作（BCL-1580）

MFレバーを操作して、バリアの開閉と無限遠から最至近までの調節をします。

- カメラとレンズの間でデータ通信はしません。
- カメラ側で一部使用できない機能があります。
- カメラの手ぶれ補正の機能は、焦点距離を15mmに設定してください。

■ レンズとカメラの組み合わせ

<table>
<tr><th>レンズ</th><th>カメラ</th><th>装着</th><th>AF</th><th>測光</th></tr>
<tr><td>マイクロフォーサーズマウント規格レンズ</td><td rowspan="3">マイクロフォーサーズマウント規格カメラ</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr>
<tr><td>フォーサーズマウント規格レンズ</td><td rowspan="2">マウントアダプター装着で可</td><td>可*1</td><td>可</td></tr>
<tr><td>OMシステムレンズ</td><td>不可</td><td>可*2</td></tr>
<tr><td>マイクロフォーサーズマウント規格レンズ</td><td>フォーサーズマウント規格カメラ</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td></tr>
</table>

*1 ［**AF方式**］の［**C-AF**］および［**C-AF+TR**］は使用できません。

*2 正確な測光はできません。

■ 主なレンズの仕様

項目	14–42mm f3.5–5.6 II R	ED40–150mm f4.0–5.6R	ED14–150mm f4.0–5.6
マウント	マイクロフォーサーズマウント		
焦点距離	14 ～ 42 mm	40 ～ 150 mm	14 ～ 150 mm
最大口径比	f3.5 ～ 5.6	f4.0 ～ 5.6	f4.0 ～ 5.6
画角	75° ～ 29°	30.3° ～ 8.2°	75° ～ 8.2°
レンズ構成	7群8枚	10群13枚	11群15枚
絞り制御	f3.5 ～ 22	f4.0 ～ 22	f4.0 ～ 22
撮影距離（焦点距離）	0.25 m～ ∞（14 ～ 19mm）0.3 m～ ∞（20 ～ 42mm）	0.9 m～ ∞	0.5 m～ ∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え		
質量（フード、キャップを除く）	113 g	190 g	260 g
大きさ（最大径×長さ）	ø56.5 × 50 mm	ø63.5 × 83 mm	ø63.5 × 83 mm
フィルター取り付けネジ径	37 mm	58 mm	58 mm
レンズフード	LH-40	LH-61D	LH-61C

項目	ED12–50mm f3.5–6.3EZ	17mm f1.8	BCL-1580 (15mm f8)
マウント	マイクロフォーサーズマウント		
焦点距離	12 ～ 50 mm	17 mm	15 mm
最大口径比	f3.5 ～ 6.3	f1.8	f8
画角	84° ～ 24°	64°	72°
レンズ構成	9群10枚	6群9枚	3群3枚
絞り制御	f3.5 ～ 22	f1.8 ～ 22	f8固定
撮影距離（焦点距離）	0.35 m～ ∞ 0.2 ～ 0.5 m（マクロ時）	0.25 m ～ ∞	0.30 m ～ ∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え	AF/MF、スナップショットフォーカス	MF
質量（フード、キャップを除く）	212 g	120 g	22 g
大きさ（最大径×長さ）	ø57 × 83 mm	ø57.5×35.5 mm	ø56×9 mm
フィルター取り付けネジ径	52 mm	46 mm	—
レンズフード	LH-55B	LH-48B	—

注意

- フィルターを2枚以上重ねたり、厚みがある種類を使用したときは、画面にけられが生じることがあります。

電子ビューファインダー（VF-4）

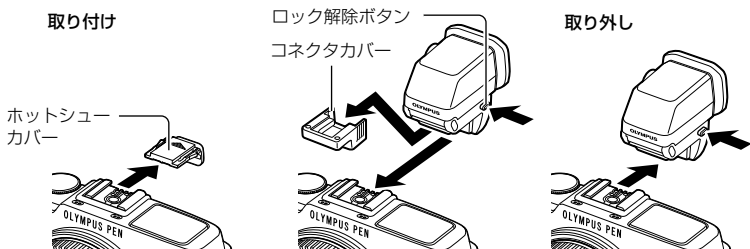
電子ビューファインダー VF-4では、ファインダーをのぞくと自動的にファインダーを点灯します。ファインダー点灯中は、カメラのモニターは消灯します。自動的に切り換えるかどうかは、メニューの設定で選択できます。ファインダー点灯中でも、メニューなどはカメラのモニターに表示します。

注意

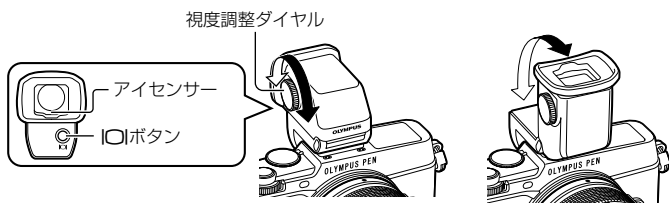
- 以下のときは自動的にファインダーが点灯しない場合があります。
  スリープ中／ムービー、3D、多重露出、ライブバルブ、ライブタイムなどの撮影中／シャッターボタン半押し中／モニター引出し状態のとき
- のぞき方や眼鏡、ファインダーへの強い入射光の影響で自動的にファインダーが点灯しない場合があります。手動で切り替える設定に変更してください。

■ 取り付け/取り外し

ロック解除ボタンを押しながらコネクタカバーを外し、カメラのホットシューに合わせて止まるまで差し込みます。

- 取り外すときは、カメラの電源を切り、ロック解除ボタンを押しながら外します。

■ 使い方

カメラの電源を入れて、ファインダーで見える像がはっきり見える位置に視度調節ダイヤルを合わせます。

- 90°までアングルを変えられます。

■ ファインダーとモニターを手動で切り換える

自動切換をオフにして、外付けビューファインダーの|□|ボタンで操作することができます。

1 アクセサリーポートメニューで、[EVF]を選択し、ボタンを押します。

2 [EVF自動切換設定]を選択し、ボタンを押します。

- VF-4の|□|ボタンを長押ししても同じメニューを表示することができます。

3 [Off]を選択してボタンを押します。

- 外付けビューファインダーの|□|ボタンを押すと、ファインダーとモニターの表示が切り換わります。

■ 主な仕様（VF-4）

表示画素数	約236万ドット
視野率	100 %
ファインダー倍率	約1.48倍(-1 m^{-1} 50 mmレンズ・無限遠)
アイポイント	約21 mm（-1 m^{-1}時）（接眼レンズ最後面から）
視度調整範囲	-4.0 ～ +2.0 m^{-1}
質量	42 g（コネクタカバーを除く）
大きさ	30.4 mm（幅）× 48.2 mm（高さ）× 47.8 mm（奥行き）

注意

- 持ち運びの際は、ファインダーを持たないでください。
- 接眼レンズから内部に直接日光を当てないでください。

専用フラッシュ

別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。カメラとの通信機能があり、TTL-AUTO、スーパーFP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。また、ブラケットケーブル(別売)を使用して専用のフラッシュブラケットに取り付けることもできます。専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。
フラッシュ使用時は、シャッター速度の上限が1/250秒となります。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	調光モード	GN（ガイドナンバー）(ISO100時)	RCモード
FL－600R	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL, FP TTL AUTO, FP MANUAL	GN36（85mm*時）GN20（24mm*時）	○
FL－300R	TTL-AUTO, MANUAL	GN20（28mm*時）	○
FL－14	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL	GN14（28mm*時）	×
RF－11	TTL-AUTO, MANUAL	GN11	×
TF－22		GN22	×

＊ カバーできるレンズ焦点距離(35 mmフィルムカメラ換算)

ワイヤレスRCフラッシュ撮影

RCモード機能付き専用フラッシュではワイヤレスフラッシュ撮影ができます。3つのグループのフラッシュと内蔵フラッシュを別々に発光制御できます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

1 ワイヤレスRCフラッシュをRCモードに設定して、配置します。

- 専用外部フラッシュの電源を入れMODEボタンを押して、RCモードにします。
- 専用外部フラッシュのチャンネルとグループを設定します。

2 撮影メニュー２（P.126)の[RCモード]を[On]にします。

- LVスーパーコンパネがRCモードに切り換わります。
- INFOボタンを繰り返し押すと、LVスーパーコンパネの表示を切り換えることができます。
- フラッシュモードを選択します。(RCモードでは赤目軽減発光はできません。)

3 LVスーパーコンパネでグループごとに調光モードなどの設定をします。

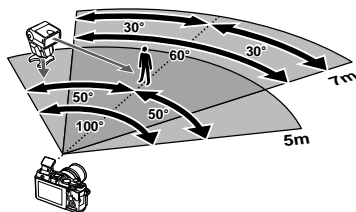
4 フラッシュスイッチを押して、内蔵フラッシュをポップアップさせます。

• カメラとフラッシュの充電完了を確認してから確認撮影します。

■ ワイヤレスフラッシュの制御可能範囲

ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。次の図は設置範囲の目安です。範囲は周辺環境により異なります。

注意

• ワイヤレスフラッシュの設置数は1グループ最大3台を推奨します。
• 4秒を超える後幕シンクロ撮影や低振動モードの場合は、ワイヤレスフラッシュ撮影できません。
• 被写体が近すぎる場合、通信用の発光が露出に影響を与えることがあります。（内蔵フラッシュをディフューザー等で減光すると症状が緩和されます。）
• RCモードで使用中は、フラッシュの同調秒時上限は1/160秒になります。

市販のフラッシュについて

市販のフラッシュをカメラのホットシューに接続して使用する場合は、次のことにご注意ください。

• カメラのホットシューのX端子に、約24V以上の電圧がかかる古いタイプの市販フラッシュを接続すると故障します。
• 弊社規格外の通信端子のあるフラッシュを接続すると故障する可能性があります。
• 撮影モードを**M**にして、シャッター速度をフラッシュの同調速度以下にして、ISO感度を[**AUTO**]以外でお使いください。
• フラッシュで調光する場合は、フラッシュにカメラのISO感度と絞り値を設定する必要があります。フラッシュによる明るさを調整するには、いずれかをシフトします。
• レンズにあった照射角のフラッシュをお使いください。通常、照射角は35mmフィルムカメラ換算の焦点距離で表します。

主なアクセサリーについて

フォーサーズレンズアダプター（MMF–2/MMF–3）

フォーサーズマウント規格レンズを使用するときに使います。レンズによってはAFなどの一部の機能が使えないものもあります。

リモートケーブル（RM–UC1）

マクロ撮影やバルブ撮影時などでシャッターボタン押下げによるカメラの振動を避けたいときに使います。カメラのマルチコネクタに接続して使用します。

コンバーターレンズ

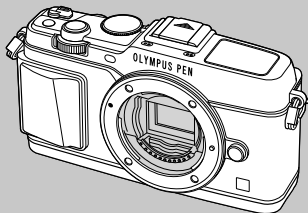
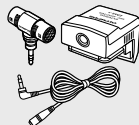
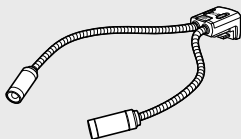
レンズに取り付けることで、手軽に魚眼撮影やマクロ撮影ができます。組み合わせ可能なレンズについては、当社ホームページをご覧ください。

- SCNのコンバーターレンズ用のモード(、、)を併用してください。

マクロアームライト（MAL–1）

マクロ撮影などで被写体に照明をあてることができます。フラッシュを使うとけられが発生する状況でも照明効果を得ることができます。

ステレオマイクセット（SEMA–1）

マイクをカメラから独立させることで周囲の騒音や風きり音の対策がしやすくなります。用途に合わせて市販のマイクを使うこともできます。付属の延長コードの併用をおすすめします。（φ3.5ステレオミニプラグインパワー対応）

システムチャート

※1 アダプターと組み合わせて使用できるレンズには制限があります。詳しくは当社ホームページをご覧ください。なお、OMシステムレンズの製造は終了となっております。
※2 取り付け可能なレンズについては、当社ホームページをご覧ください。

最新情報は当社ホームページをご確認ください。

※3 OLYMPUS PENPALは、購入した地域以外では使用できません。地域によっては電波管理規制に違反する、その処罰の対象となることがあります。
※4 Eye-Fiカードは、使用する国や地域の法律にしたがってお使いください。

メニュー一覧

*1：[マイセット]が登録可能な機能
*2：[リセット]（フル）で初期設定に戻る機能
*3：[リセット]（標準）で初期設定に戻る機能

撮影メニュー

タブ	機能			初期設定	*1	*2	*3	☞
1	カードセットアップ			—				62
	リセット/マイセット			—		✔		63
	ピクチャーモード			Natural	✔	✔	✔	54
	画質モード	静止画		LN	✔	✔	✔	56
		ムービー		MOV FullHD F				
	アスペクト比設定			4:3	✔	✔	✔	55
	デジタルテレコン			Off	✔	✔	✔	70
2	□/⏲			□	✔	✔	✔	43
	手ぶれ補正	静止画		S-I.S. オート	✔	✔	✔	53
		ムービー		M-I.S. On	✔	✔	✔	
	ブラケット撮影	AE BKT		Off	✔	✔	✔	66
		WB BKT	A–B	Off				66
			G–M					
		FL BKT		Off				67
		ISO BKT		Off				67
		ART BKT		Off				67
		HDR BKT		Off				67
	多重露出	コマ数		Off		✔	✔	68
		自動ゲイン補正		Off				
		再生画+多重		Off				
	インターバル撮影設定			Off		✔	✔	69
		コマ数		99		✔	✔	69
		撮影開始待ち時間		00:00:01				
		撮影間隔		00:00:01				
		タイムラプス動画		Off				
	⚡RCモード			Off	✔	✔	✔	121

▶ 再生メニュー

タブ	機能			初期設定	*1	*2	*3	☞
▶	スライドショー	スタート		—				51
		BGM		Melancholy		✓	✓	
		効果		フェード		✓	✓	
		スライド		すべて		✓	✓	
		1コマ再生時間		3秒		✓		
		ムービー再生		ショート		✓		
	回転再生			On		✓	✓	71
	編集	画像選択	RAW編集	—				71
			JPEG編集	—				72
			録音	—				73
		画像合成		—				73
	プリント予約			—				96
	全プロテクト解除			—				73
	スマートフォン接続			—				73

🔧 セットアップメニュー

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3	☞
🔧	日時設定		—				14
	[言語]		日本語				74
	モニタ調整		色温度 ±0、明るさ ±0、Vivid		✓		74
	撮影確認		0.5秒	✓	✓		74
	Wi-Fi設定	Wi-Fi接続設定	プライベート接続		✓		74
		プライベート接続パスワード設定	—				
		全シェア予約解除	—				
		Wi-Fi設定リセット	—				
	[カスタム]/[ガイド]メニュー表示	[カスタム]メニュー表示	On		✓		74
		[ガイド]メニュー表示	Off				
	バージョン		—				74

11

別売品を使う

カスタムメニュー

タブ	機能		初期設定		*1	*2	*3	☞
	A AF/MF							
	AF方式	静止画	S–AF		✓	✓	✓	76
		ムービー	C–AF					
	フルタイムAF		Off		✓	✓	✓	
	AEL/AFLモード		S-AF	mode1	✓	✓	✓	
			C-AF	mode2				
			MF	mode1				
	レンズリセット		On			✓	✓	
	BULB/TIME中MF		On			✓	✓	
	フォーカスリング				✓	✓	✓	
	MFアシスト	拡大	Off		✓	✓		
		ピーキング	Off		✓	✓		
	Home登録					✓	✓	
	AFイルミネータ		On		✓	✓	✓	77
	顔優先				✓	✓		
	B ボタン/ダイヤル/レバー							
	ボタン機能	Fnボタン機能	LIVE GUIDE		✓	✓		77
		ボタン機能						
		ボタン機能	REC					
		ボタン機能						
		ボタン機能	/					
		ボタン機能	ダイレクト機能					
		L-Fnボタン機能	AF停止					
	ダイヤル機能	P	プログラムシフト/露出補正		✓	✓		
		A	絞り/露出補正					
		S	シャッター速度/露出補正					
		M	シャッター速度/絞り					
		Menu	△▽、◁▷					
		▶	インデックス、拡大／コマ送り、戻し					
	ダイヤル方向		ダイヤル1		✓	✓		
	モードダイヤル機能		Off			✓		
	レバー機能		mode1			✓		
	C レリーズ/連写							
	レリーズ優先S		Off		✓	✓	✓	77
	レリーズ優先C		On		✓	✓	✓	
	L設定		5fps		✓	✓	✓	
	H設定		9fps		✓	✓	✓	
	+手ぶれ補正Off連動		On			✓		
	半押し中手ぶれ補正		On			✓		
	レンズ側手ぶれ補正優先		Off		✓	✓	✓	
	レリーズタイムラグ		標準			✓		

11
別売品を使う

タブ		機能		初期設定	*1	*2	*3	☞
⚙	D	表示/音/接続						
		HDMI	HDMI出力	1080i優先		✔		78
			HDMIコントロール	Off		✔		
		ビデオ出力		NTSC				
		Control表示	iAUTO	ライブガイド		✔		
			P/A/S/M	LVコントロール		✔		
			ART	ARTメニュー		✔		
			SCN	SCNメニュー		✔		
		/Info表示設定	INFO	表示Off、総合表示	✔	✔	✔	
			LV-Info	表示Off、ヒストグラム、水準器	✔	✔		
			表示	25コマ、カレンダー	✔	✔		
		表示罫線選択		Off	✔	✔		
		ピクチャーモード表示		On	✔	✔		
		ヒストグラム警告設定	ハイライト表示	255		✔		
			シャドウ表示	0				
		モードガイド表示		On		✔		
		LVブースト		Off	✔	✔	✔	
		フレームレート		標準	✔	✔	✔	
		アートLVモード		mode1		✔		
		フリッカー低減		オート		✔		79
		LV拡大モード		mode2		✔		
		ピーキング表示		白	✔	✔		
		バックライト時間		Hold	✔	✔	✔	
		スリープ時間		1分	✔	✔	✔	
		自動電源Off		4時間		✔	✔	
		電子音		On	✔	✔	✔	
		USB接続モード		オート		✔	✔	
	E	露出/測光/ISO						
		露出ステップ		1/3EV	✔	✔	✔	79
		長秒時ノイズ低減		オート	✔	✔	✔	
		高感度ノイズ低減		標準	✔	✔	✔	
		ISO感度		オート	✔	✔	✔	
		ISO感度ステップ		1/3EV	✔	✔	✔	
		ISOオート設定		上限値：1600　基準値：200	✔	✔	✔	
		ISOオート有効		P/A/S	✔	✔		80
		測光			✔	✔	✔	
		AEL測光モード		オート	✔	✔	✔	
		BULB/TIMEリミッター		8分	✔	✔	✔	
		BULB/TIME輝度設定		-7	✔	✔		
		ライブBULB設定		Off	✔	✔		
		ライブTIME設定		0.5秒	✔	✔		
		低振動モード[♦]		Off	✔	✔	✔	
	F	フラッシュ						
		⚡同調速度		1/250	✔	✔	✔	80
		⚡低速制限		1/60	✔	✔	✔	
		⚡+⚡連動		Off	✔	✔	✔	

11

別売品を使う

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3	☞
	G 画質/色/WB						
	画質設定		—	✓	✓	✓	81
	ピクセルサイズ	Middle	2560 × 1920	✓	✓	✓	
		Small	1280 × 960				
	シェーディング補正		Off	✓	✓	✓	
	WBモード		オート　A：0、G：0	✓	✓	✓	
	全WBモード補正	All Set	—	✓	✓		
		All Clear	—		✓		
	WBオート 電球色残し		On	✓	✓	✓	
	⚡+WB連動		WB AUTO	✓	✓	✓	
	カラー設定		sRGB	✓	✓	✓	
	H 記録/消去						
	ワンプッシュ消去		Off	✓	✓	✓	82
	RAW+JPEG消去		RAW+JPEG	✓	✓	✓	
	ファイルネーム		リセット		✓		
	ファイルネーム編集		Off		✓		
	実行優先設定		中止優先		✓	✓	
	dpi設定		350dpi		✓		
	著作権情報	著作権情報記録	Off		✓		
		撮影者入力	—				
		著作権者入力	—				
	I 動画						
	🎥モード		P		✓		83
	ムービー録音		On	✓	✓	✓	
	動画エフェクト		On		✓		
	風切り音低減		Off		✓		
	録音レベル調整		標準		✓		
	J その他						
	ピクセルマッピング		—				83
	露出基準調整	(ESP)	±0	✓	✓		
		(中央重点)					
		(スポット)					
	(電池)警告レベル		±0		✓		
	水準器調整		—		✓		
	タッチパネル設定		On	✓	✓		
	Eye-Fi 設定		On		✓		

11

別売品を使う

アクセサリーポートメニュー

タブ		機能		初期設定	*1	*2	*3	☞
	A	OLYMPUS PENPAL 通信						
		画像/登録を受ける		—				93、95
		アドレス帳	アドレス一覧	—				95
			検索時間	30秒		✔		
			新規登録	—				
		マイ OLYMPUS PENPAL		—				
		送信画像サイズ		サイズ1		✔		
	B	OLYMPUS PENPAL アルバム						
		全コマコピー		—				95
		全プロテクト解除		—				
		アルバム保存状況		—				
		セットアップ		—				
		コピー画像サイズ		サイズ2		✔		
	C	EVF						
		EVF調整		±0、 ±0		✔		95
		EVF自動切換設定		On		✔		95

11

別売品を使う

仕様

■ カメラ

型式	
型式	マイクロフォーサーズ規格準拠レンズ交換式カメラ
使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL・マイクロフォーサーズシステムレンズ
レンズマウント	マイクロフォーサーズマウント
35 mmフィルムカメラ換算焦点距離	レンズ焦点距離の約2倍
撮像素子	
型式	4/3型Live MOSセンサー
カメラ部有効画素数	約1605万画素
画面サイズ	17.3 mm（H）×13.0 mm（V）
アスペクト比	1.33（4:3）
ライブビュー	
センサー	Live MOSセンサー使用
視野率	100%
モニター	
型式	3.0 型TFTカラー液晶、可動式、タッチパネル
総画素数	約104万ドット（アスペクト比 3：2）
シャッター	
型式	電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/8000 ～ 60秒、バルブ撮影、タイム撮影
オートフォーカス	
型式	イメージャコントラスト検出方式
測距点	35点
測距点選択	自動選択・任意選択
露出制御	
測光方式	TTL測光方式（イメージャ測光） デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光
測光範囲	EV 0 ～ 20（デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光）
撮影モード	iAUTO：iオート／ **P**：プログラムAE（プログラムシフト可能）／ **A**：絞り優先AE ／ **S**：シャッター優先AE ／ **M**：マニュアル／ ：フォトストーリー／ ART：アートフィルター／ SCN：シーン／ ：ムービー
ISO感度	LOW、200 ～ 25600（1/3、1ステップ）
露出補正	±3EV（1/3、1/2、1ステップ）
ホワイトバランス	
型式	撮像素子
設定方式	オート／プリセット（7種）／カスタムWB ／ワンタッチWB
記録	
記録媒体	SD ／ SDHC ／ SDXC ／ Eye-Fi UHS-I対応
記録方式	デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ、MPフォーマット
対応規格	Exif 2.3、DPOF、PRINT Image Matching III、PictBridge
静止画音声	Waveフォーマットに準拠
ムービー	MPEG-4 AVC/H.264 ／ Motion JPEGに準拠
音声	ステレオPCM 48kHz
再生	
表示形式	1コマ表示／拡大表示／インデックス表示／カレンダー表示

ドライブ関係	
ドライブモード	1コマ撮影／連写／セルフタイマー
連写性能	最高9コマ/秒(連写H時)
セルフタイマー	12秒後撮影／ 2秒後撮影／カスタム
省電力機能	スリープモード移行：1分、電源OFF：4時間 (カスタマイズ可)
フラッシュ	
ガイドナンバー	7（ISO100•m）（10（ISO200•m））
照射角	14mmレンズ(35mmフィルム換算28mm相当)の画角をカバー
調光方式	TTL-AUTO（TTLプリ発光式）／ MANUAL
同調速度	1/320秒以下
無線LAN	
対応規格	IEEE 802.11b ／ g ／ n
外部コネクタ	
マルチコネクタ(USB端子／ AV端子）／ HDMIマイクロコネクタ(タイプD）／アクセサリーポート	
電源	
電池	リチウムイオン電池 1個
大きさ・質量	
大きさ	122.3 mm (幅) × 68.9 mm (高さ) × 37.2 mm (奥行き) (突起部を除く)
質量	約420 g（電池／カードを含む）
動作環境	
温度	0℃～40℃（動作時）／ –20℃～60℃（保存時）
湿度	30%～90%（動作時）／ 10%～90%（保存時）

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing、LLCの商標または登録商標です。

11
別売品を使う

■ リチウムイオン電池

MODEL NO.	BLN-1
形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC7.6 V
公称容量	1220 mAh
充放電回数	約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	0℃～ 40℃（充電）
大きさ	約36.0 mm（幅）×15.4 mm（高さ）×50.2 mm（奥行き）
質量	約52 g

■ リチウムイオン充電器

MODEL NO.	BCN–1
定格入力	AC100 V ～ 240 V（50/60 Hz）
定格出力	DC8.7V、600mA
充電時間	約4時間（常温）
使用周囲温度	0℃～ 40℃（動作時）／ –20℃～ 60℃（保存時）
大きさ	約67 mm（幅）×26mm（高さ）×95.5 mm（奥行き）
質量（電源コード含まず）	約77 g

- 付属のACケーブルは、本機専用のケーブルですので、他の機器に使用しないでください。また、他の機器のケーブルを本機に使用しないでください。

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- 可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない

  引火・爆発の原因となります。
- フラッシュやLEDを人(特に乳幼児)に向けて至近距離で発光させない

  視力障害をきたすおそれがあります。
- 幼児や子供、ペットなどの動物が触れる可能性のある場所に放置しない。

  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡し、指示を受けてください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない

  火災や感電の原因となることがあります。
- フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない

  連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- 分解や改造をしない

  感電やけがをする原因となります。
- 内部に水や異物を入れない

  火災や感電の原因になります。万一、水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- 通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない

  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。
- 専用の電池または充電器以外は使用しない

  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

⚠ 注意

- 異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用を中止する

  火災や、やけどの原因となります。このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。(電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。)
- 濡れた手で操作しない

  故障、感電の原因となることがあります。また充電器などの電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

- カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する

  けがや事故の原因となることがあります。
- 高温になるところへ放置しない

  部品の劣化、火災の原因となります。
- 充電器などのコードは傷つけたり、引っ張ったり、継ぎ足したりしない

  コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。以下の場合は直ちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグにキズ、断線、またはプラグに接触不良がある。

交換レンズについてのご注意

- レンズまたは光学ビューファインダー（外付け）で直接太陽や強い光を見ない

  失明や視力障害を起こすことがあります。
- 使用しないときはレンズキャップを付けて保管する

  太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- 火の中に投下したり、加熱しない

  発火・破裂・火災の原因となります。
- 端子を金属等で接続しない
- 電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない

  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。
- 直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で使用・放置しない

  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- 直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない

  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。

  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない

  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- 電池の液が目に入った場合は、失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流した後、直ちに医師の診断を受けてください。

⚠ 警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない
- 濡れた手で電池を触ったり持ったりしない
- 所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止する

  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- 外装にキズや破損のある電池は使用しない

  破裂・発熱の原因となります。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない

  破裂・発熱の原因となります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止する

  販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。

⚠ 注意

- カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さない

  やけどの原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく

  液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- 充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない

  故障・感電の原因となります。
- 充電器を布などで覆った状態で使用しない

  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- 充電器を分解・改造しない

  感電・けがの原因となります。
- 充電器は指定の電源電圧で使用する

  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破壊・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。
- 充電器が熱い、異臭や異常音がする、煙が出ているなど異常を感じたら、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止し、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

⚠ 警告

- コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持つ

  電源プラグを持たないと、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う

  電源プラグを抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

無線LAN機能についてのご注意

⚠ 警告

- 心臓ペースメーカーを装着している方から22cm以上離す

  本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。
- 病院内や医療用電気機器のある場所では電源を切る

  本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。
- 航空機内では電源を切る

  運行の安全や支障をきたすおそれがあります。

■ 機器認定について

本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されています。認証ラベルは無線設備に添付されています。次の事項を行った場合、法律で罰せられることがあります。

本製品を分解、又は改造すること
本製品の証明ラベルをはがすこと

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業、科学、医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定省電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くでこれらの無線局が運営されてないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに場所を変更するか、または電波の使用を停止してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定省電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときは、カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

本機は、2.4GHz周波数帯を使用するDSSS/OFMD変調方式を採用しており、与干渉距離は、40 m以下です。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。

  直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中､冷暖房器､加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所

  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビが生えるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- テレビ、電子レンジ、ゲーム機、スピーカー、大型モーター、電波塔や高圧線の近くでカメラを使用すると、磁気や電磁波、電波、高電圧の影響で、カメラが誤動作する場合があります。カメラが正常に動作しない場合は、電源を切ってから､再度電源を入れてください。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラ本体や交換レンズの電気接点部には触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。
- カメラの撮像素子に直接触れたり、また掃除したりしないでください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。
  海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 長期間保管する場合は、涼しいところに保管してください。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。
- 詳しくは一般社団法人JBRCホームページ(http://www.jbrc.com)をご覧ください。

12 安全にお使いいただくために

モニターについて

本製品は背面の表示に、液晶モニターを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 万一、モニターを破損した場合は、中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- モニターの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、モニターにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニターは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニターは、常温に戻ると回復します。
- 本製品のモニターは、精密度の高い技術で作られていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、モニターの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 電気回路接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

接続ケーブル、ACアダプタ（ACアダプタ対応機種のみ）は、必ず、当製品指定のものをお使いください。

指定品以外では、VCCI協会の技術基準を超えることが考えられます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。

SDXCロゴは、SD-3C,LLCの商標です。

Eye-FiはEye-Fi,Incの登録商標です。

階調自動調整機能は、Apical Limitedの特許技術を使用しています。

スライドショーの効果には、エイチアイの技術を使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

Micro Four Thirds および
Micro Four Thirds ロゴマークは
オリンパスイメージング(株)の日本・米国・EU・その他各国の商標または登録商標です。

PENPALはOLYMPUS PENPALを示します。

Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの認証マークです。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NONCOMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

オリンパス イメージング株式会社

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
また、オンライン修理受付の詳細やインターネットでのお申し込み、修理に関するお問合せ先（修理センター、国内サービスステーションなど）、カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間につきましても当社ホームページで最新情報をお知らせしております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● 製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）

フリーコール **0120-084215**

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

便利でお得なサービスメニューをご用意しています

● オンライン修理受付のご案内

オンライン修理受付では、インターネットを利用して修理のお申し込みや修理の状況をご確認いただけます。また、下記にご案内しておりますピックアップサービス（引取修理）も、オンライン修理受付からお申し込みいただけます。

● ピックアップサービス（引取修理）のご案内

オリンパス指定の運送業者が、梱包資材を持ってお客様ご指定の日時にご自宅へお伺いし、故障した製品をお預かりします。お客様自身での梱包は不要です。その後弊社にて修理完成後、お客様のご自宅へ返送いたします。

電話でのお申し込みの場合：　「オリンパス修理ピックアップ窓口」
フリーダイヤル **0120-971995**
営業時間：平日8:00～20:00 土・日・祝日9:00～18:00（指定休業日を除く）

※ 記載内容は変更されることがあります。

WC041601